

昭和40年版 中南米各集団移住地現況

海外移住事業団

JICA

600

234

EM

LIBRARY

19297

JICA LIBRARY



1071972[2]

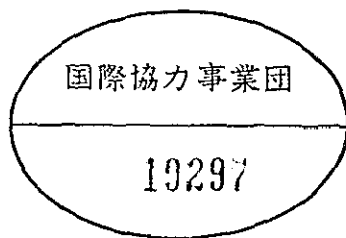
調査資料第 4 号

中南米各集團移住地現況

——昭和 4 0 年 版——

昭和 4 0 年 1 月

海外移住事業団



| 国際協力事業団 | |
|----------|------|
| 受入 月日 | 600 |
| | 23.4 |
| 登録No. | EM |

(ま え が き)

この小冊子は、昨年1月に発刊された「中南米各集団移住地現況」が、その後現地事情の変移にともない改訂の必要にせまられ、こゝに版を新たにしたものである。

内容は出来るだけ簡潔に各移住地の現況を要約し、一目で概況の把握が出来る様な様式にした。

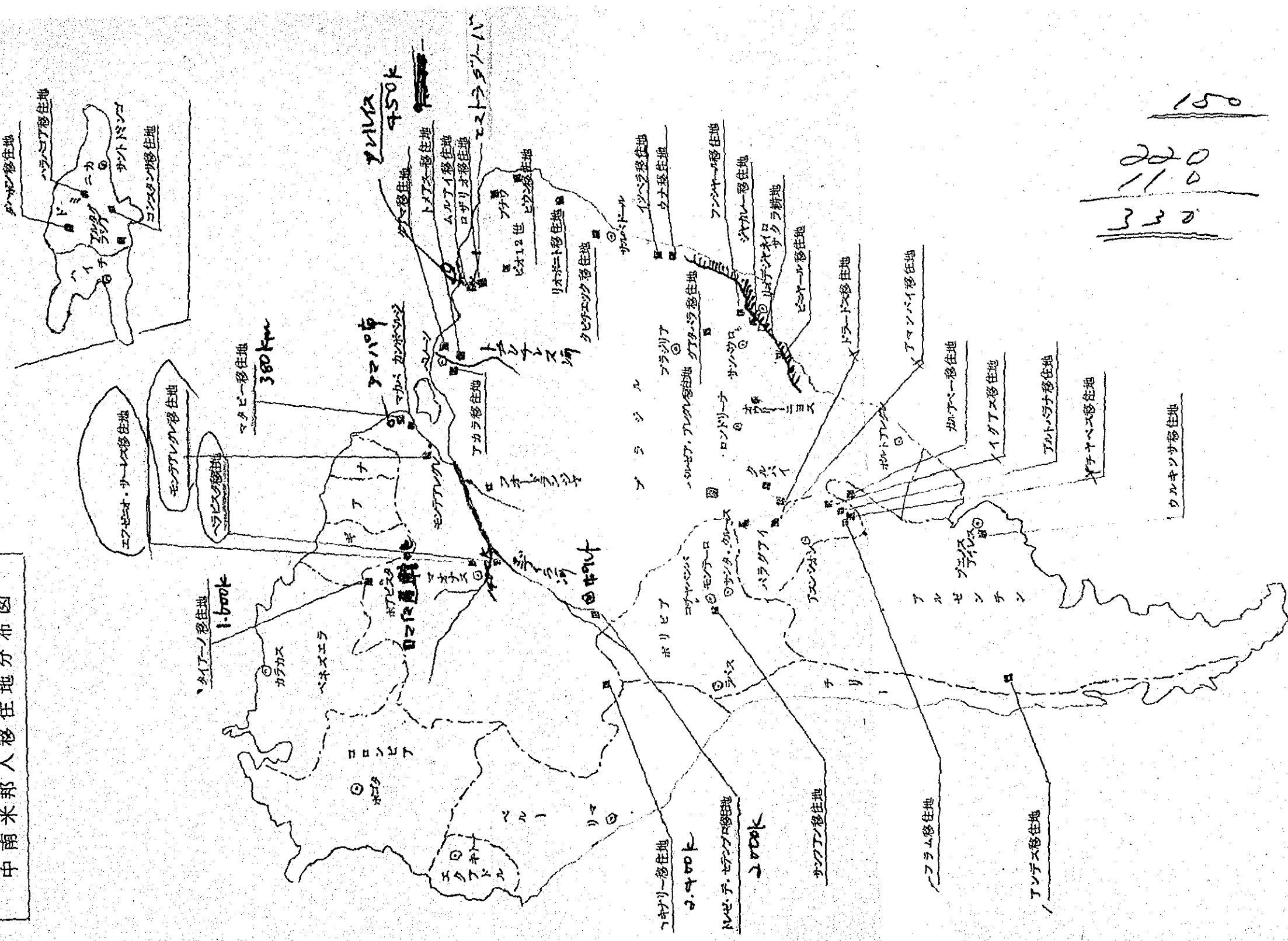
本冊子が移住実務担当者のための参考資料となれば幸いである。

昭和40年1月

業 務 第 二 部

中南米邦人移住地分布図

1. 邦人 100k 以内 主要移住地 (近年、急増)
 2. それ以上の邦人移住地 (近年作)



150
 220
 110
 330

中南米移住地現況

| ブラジル国 | 頁 | 南伯 | 頁 |
|-------------------|----|-----------------|----|
| 北伯 第二トメアス | 2 | ジャカレー | 48 |
| トメアス | 4 | サクラ | 50 |
| アカラー | 6 | グアタバラ | 52 |
| グアマ | 8 | ビニヤール | 54 |
| ロザリオ | 10 | クルバイ | 56 |
| ムルアイ | 12 | ドラードス | 58 |
| マタビー | 14 | オウリーニヨス | 60 |
| カンボベルジ | 16 | バルセア・アレグレ | 62 |
| モンテアレグレ | 18 | アルゼンティン国 | |
| ベラピスタ | 20 | ガルアペー | 64 |
| エフエゼニョサーレス | 22 | アンデス | 66 |
| タイアーノ | 24 | ウルキツサ | 68 |
| エストラーダノーバ | 26 | パラグアイ国 | |
| トレゼ・デ・セテンプロ | 28 | イグアス | 70 |
| キナリー | 30 | チャベス | 72 |
| 中伯 ビオ12世 | 32 | フラム | 74 |
| ブナウ | 34 | アルトバラナ | 76 |
| ピウン | 36 | アマンバイ | 78 |
| リオ・ポニート | 38 | ボリビア国 | |
| ウナ | 40 | サンフアン | 80 |
| イツペラ | 42 | ドミニカ国 | |
| クビチエツク | 44 | ダハボン | 82 |
| フンシヤール | 46 | コンスタンサ | 84 |
| | | ハラバコア | 86 |

北 伯

| | |
|---------|------------|
| 地 区 名 | 第 2 トメアスー |
| 移 住 形 態 | 自営開拓農（事業団） |
| 受入世話機関 | 事業団 ベレン支部 |

1 地 区 概 要

| | | |
|-----------|---|---|
| 自 然 的 条 件 | 位 置 地 形 地 質 , 土 壌 植 生 , 林 相 気 候 | ベレン市より 約 270 km (緯度 4° 50' 南 1° 50' 西) 標高 11~30 m (平均 20 m) 概ね平坦地区内をアカラ河の支流クシュ川及びアカラ, ミリ川が横断している。 沖積性砂礫土なるも奥地に行くに従い地味がよくなる。 熱帯性原生林に覆われ。アカプその他の有用材も若干混在している。 熱帯性の高温多湿型なるも (年平均 25.6), ベレン周辺よりは乾湿の变化が顕著である。雨期は 12~5 月, 乾期は 8 月~12 月 |
|-----------|---|---|

| | | |
|-----------|--------------------------------------|--|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 市 場 医 療 , 教 育 施 設 そ の 他 | 本地区は, 第 1 トメアスー地区より南方 10 km の地点にあり, 地区より第 1 トメアスー基地港トメアスー波止場までは 28 km 位, 港よりベレン市までは水路 (アカラ河) で 270 km, 組合経営の定期船が就航している他, テコテコ機が毎日ベレン~トメアス間を往復している。 外部への陸路はないが, 目下ブラジリア街道までの 90 km 道路が計画されている。 消費市場ベレン市人口 40 万, アマゾン流域最大の都市で行政, 文化, 商業の中心である。アマゾンの農産物輸出港で主な取引物はジュータ, ビメンタ, ゴム, カスタニア, その他が出荷されている。短期作物は主としてベレン市を対照としているが, 永年作物ビメンタはベレン港を経て北米及びヨーロッパ, アルゼンチンに輸出されている。 診療所は植民地内にあり, ベレン駐の事業団嘱託医が定期的に巡回している。小学校が植民地内に 1 校ある。トメアスー町内に中学校がある。 |
|-----------|--------------------------------------|--|

302/150 25030
11.06
10

2 入植計画 (状況)

| 入植戸数 | 年度 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 計 | 定着戸数 |
|-------|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| | 戸数 | | | | | | | | | | | 25 | 6 | | | |
| 総面積 | 25800 ha | | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 25 ha | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 一括払 230,000円 分割払 291,000円 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 一括払は渡航前に日本国内において事業団に支払う。 分割払は頭金5万円を渡航前に日本国内において事業団に支払い残金は4年据置、3ヶ年平均等年賦払で伯国において事業団に支払う。 | | | | | | | | | | | | | | | |

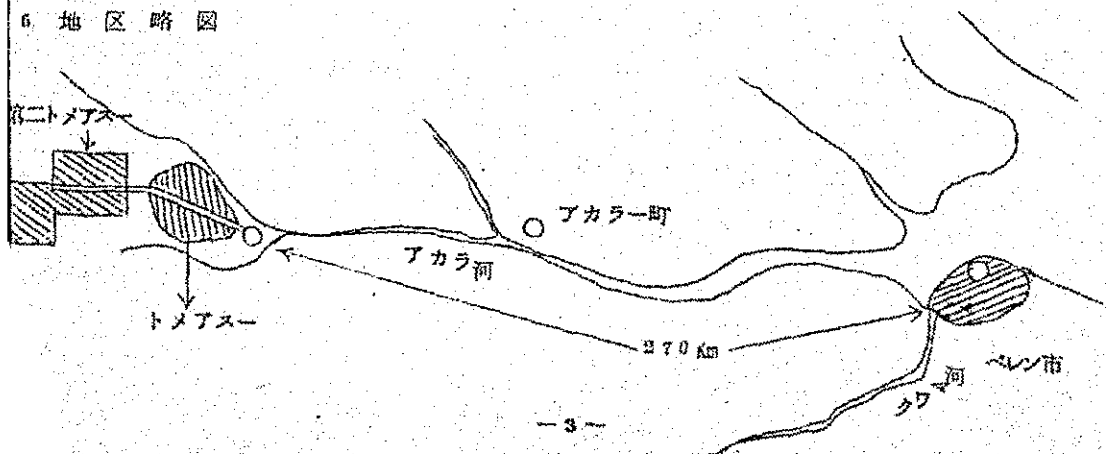
3 営農計画

| | |
|--------|---|
| 主作物 | ビメンタの栽培を主とし、これに雑作を加味している。 |
| 営農のしめ方 | ビメンター辺側の経営方式は病害、販売価格の下落等の危険性があるので、多角経営方式に移行すべく、他の永年作物主に香料作物の研究がなされている。 価格下落の防止策としてビメンタのオイル抽出工場の誘致計画がなされ、日本から鐘紡及び高砂香料両者の合併型態で進出している。(カネボウ・高砂香料) |

4 特記事項及び問題点

本入植地は当アマゾン地域唯一の事業団直営移住地である。当初ビメンタを主体としてその増産を目的とし建設された。

6 地区略図



| | |
|--------|------------------|
| 地区名 | トメアスー |
| 移住形態 | 自営開拓農（トメアスー産業組合） |
| 受入世話機関 | 事業団ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|----------------|------------|
| 自然的条件 | 位置 | 第2トメアスーに同じ |
| | 地形 | |
| | 地質，土壤 植生，林相 | |
| | 気候 | |

| | | |
|---------|---------|--------------------------------------|
| 社会経済的条件 | 交通 | 第2トメアスーに同じ |
| | 市場 | |
| | 医療，教育施設 | 植民地内に診療所があり，日本人医師1名，看護婦3名が診療に従事している。 |
| | その他 | 小学校3校，中学校1校が植民地内にある。 |

2 入植計画 (状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| | | | 29 | 77 | 71 | 0 | 0 | 6 | 6 | 20 | 31 | | | |
| 総面積 | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地面積 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

3 営農計画

| | |
|----------------|------------|
| 主作物 営農のすすめ方 | 第2トメアスーに同じ |
|----------------|------------|

特記事項及び問題点

昭和4年南米拓殖株式会社の植民地として発足、戦前352家族の入植を見たが、営農上の失敗やマラリヤのしりけつ等により退耕者多く、89家族が定着、戦後ビメンタの栽培に成功、飛躍的發展を見た。現在5000屯を生産し北米、ヨーロッパ、アルゼンチンに輸出している。当植民地の雇用移住者は昭和28年度より受け入れられたが、一時親旧移住者の相克が生じ退耕者を出した、現在は現地の営農並びに生活を学ぶ意味において、独立までの一期間雇用移住者として就労するものが多くなってきた。雇用移住者の問題点は、独立資金を就労賃金のみでは貯蓄することが困難であること、渡伯時日本より携行するか、融資の必要がある。

地区略図

第2トメアスー地区図参照

| | |
|---------|-----------------|
| 地 区 名 | ア カ ラ ー |
| 移 住 形 態 | 自営開拓農(パラ州政府植民地) |
| 受入世話機関 | ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-----------------------|---|---|
| 自 然 的 条 件 | 位 置 | ベレンとトメアスーの丁度中間ベレン市より水路120kmの地点にあるアカラ町より西南方22kmの地点 |
| | 地 形 | 第三紀層段丘地域で平坦な段丘面と段丘をきざむ谷からなる地帯である。 |
| | 地質, 土壌 | 地質は砂岩, 頁岩, 土壌はラテライト化土, PH=4.2で酸度強 |
| | 植生, 林相 | 熱帯雨林で有用材, アカプー, カスタニア樹等巨木が密生する。 |
| 気 候 | 年間平均気温25.6℃ 関係湿度85.9% 年間雨量3072.5mm 雨期(12月~5月) 乾期(6月~11月) | |

| | | |
|-----------------------|----------|--|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | ベレン, トメアスー間の船舶の中間寄港地でありベレン市よりアカラ郡管の小型船(40トン級)が往復している。アカラ町より植民地までは郡道が通過しており, 事業団貸与のトラックが往復している。 |
| | 市 場 | 消費市場アカラ町は人口5千人程度なので, ベレン市を主たる消費市場としている。 |
| | 医療, 教育施設 | 植民地内に小学校あり, 診療所はアカラ町にあるが, 医師は常駐しておらず看護婦一名が駐在している。事業団嘱託医が巡回診療を年数回行なっている。 |
| | そ の 他 | |

2 入植計画（状況）

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-------|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| | | | | | | | | 3 | 20 | | 2 | | 25 | 27 |
| 総面積 | 州有地の払下げを個人で受け、州政府としては未だ植民地として事務所は設置されていない。（既入植者22家族は昭和39年1月19日地権交付された。） | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 25Ha～100Ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

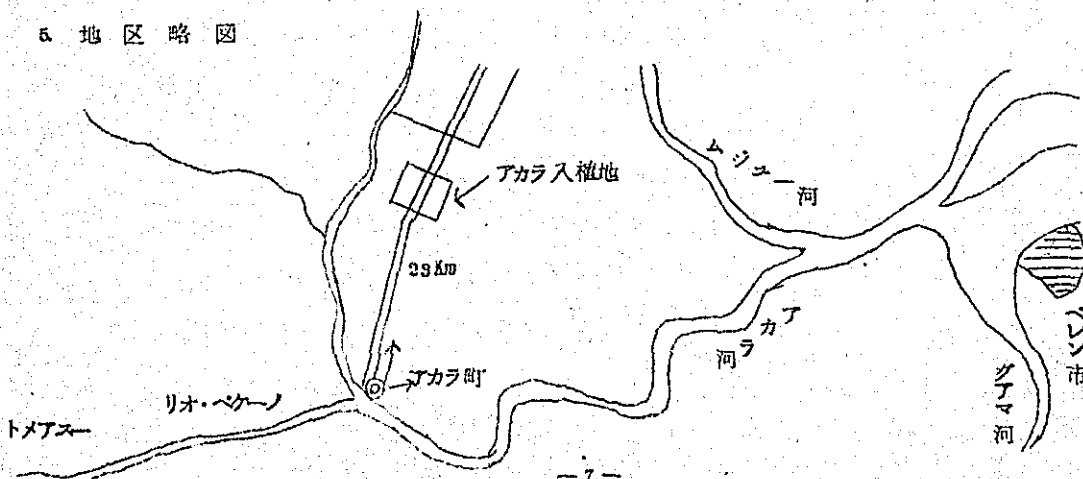
3 営農計画

| | |
|---------|--|
| 主作物 | 永年作物ビメンタ、短期作物、養鶏、蔬菜、米 |
| 営農のすすめ方 | ビメンタの好況に刺激され、ビメンター本の営農型態で進んできたが、これが是正の必要があり、永年作としてクマルー果樹類、短期作として大豆養鶏を取り入れつつある。 |

4 特記事項及び問題点

グアマ、ベルナンブコの入植者が転出を希望し 旧海協連支部あつせんによりアカラ郡の好意的積極的導入策によつて州有地の無償払下げを受け入植したものである。当初ビメンター本の営農を進めて来たが、今後は多角経営農業の必要性がある。

5 地区略図



| | |
|--------|--------------|
| 地区名 | グアマ |
| 移住形態 | 自営開拓農(聯邦植民地) |
| 受入世話機関 | ベレン支部 |

1. 地区概要

| | | |
|------|--------|---|
| 自然条件 | 位置 | ベレン市より80km(緯度2°30' S 48° W) |
| | 地形 | 標高0~20mアマソンの支流グアマ河左岸の低湿な氾濫原であるが、この特徴として、河と氾濫原との間に自然堤が出来ていることである。氾濫原の奥は比高数米の高台となっている。 |
| | 地質, 土壌 | 氾濫原の土壌はいわゆるアマゾンヴァルゼアの堆積土壌であるが、有機物は少ない。高台地の方は洪積層のテラファイルメで砂質壤土である。 |
| | 植生, 林相 | |
| | 気候 | 最高気温31.8℃ 最低22.2℃ 平均25.6℃ 雨期12月~5月, 乾季6月~11月, 年平均雨量2186mm 湿度85~90%, 増水期12月より5月末まで。河水は干満の影響を受ける。 |

| | | |
|-------|----------|--|
| 社会的条件 | 交通 | ベレン市(人口約40万人)まで水路約48kmで、陸路は約80kmでベレン市に通じ事業団貸与のトラック及船舶が往復している。雨期には交通が不能となることもある。 |
| | 市場 | (ベレン市)アマゾン流域最大の都市で行政, 文化, 商業の中心である(日本総領事館あり)アマソンの農産物輸出港で主な取引物はジュエータ, ビメンタ, ゴム, カスタニア, その他が出荷されている。昨年BR14国道が開通され南伯との経済的交流が盛んとなり, アマゾン地域の経済発展に重要な役割を占める都市となった。 |
| | 医療, 教育施設 | 植民地内に小学校3, ベレンには法科, 経済科, 工科, 農科等の総合大学がある。移住地内の医療所は看護婦のみにて医師は常駐していないが, 事業団嘱託医が巡回診療を行っている。 |
| | その他 | |

入植計画(状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | 31 | 37 | | 1 | 1 | 1 | | | | 45 |
| 総面積 | 33510 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 25 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

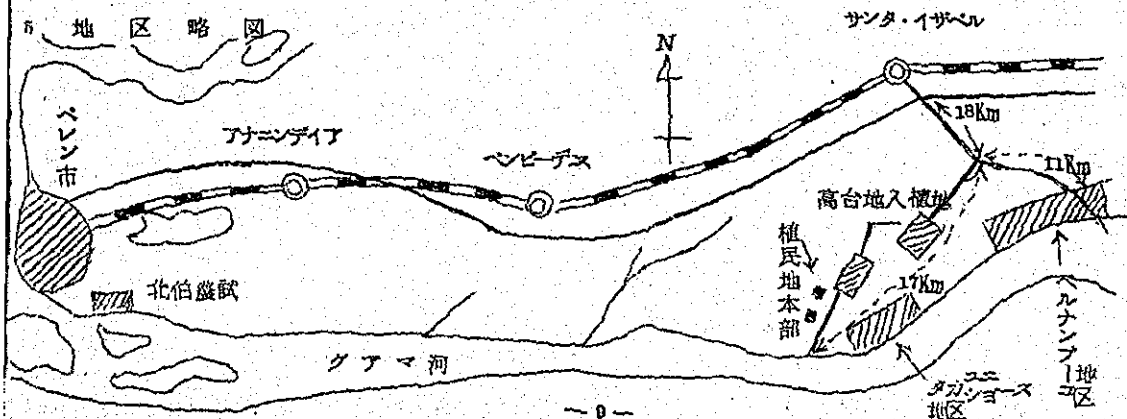
営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 短期作物、米、野菜、永年作物、ビメンタ、コーヒー、カカオ、果樹類 |
| 営農のすすめ方 | 本入植地は築堤、排水溝設置によつて水稲栽培を計画したが、伯国側がこの工事を施行しなかつたため野菜栽培に切替え低湿地においては蔬菜栽培を行なつていたが、最近籼米の試作に成功して低地では水稲栽培。高台においてはビメンタ等永年作物の栽培を行なつている。 |

特記事項及び問題点

入植当初多数の退耕者を出したが甘藍の栽培に成功して以来ベレン市場を独占することとなり、且つ籼米の導入により水稲栽培にも成功した。
トメアスー移住地の胡椒(永年作)と共に甘藍、水田米の栽培はアマゾン地域の農産生産物に新しい分野を開いたことは、伯国側への貢献と邦人移住者の誇となつている。

地区略図



| | |
|--------|--------------------|
| 地区名 | ロザリオ |
| 移住形態 | 自営開拓農(マラニオン州政府植民地) |
| 受入世話機関 | ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|--------|---|
| 自然的条件 | 位置 | サンルイス市より90Km(緯度 $2^{\circ}58'S$ $44^{\circ}1'SW$) |
| | 地形 | 標高約8m, 地区内一般に起伏ゆるやか平坦に近い中央部に一部高地あり、地区東部はロザリオ市に至る道路が接し北、南部に沿つて小川が流れている。この小川は乾燥にも漏水しない。 |
| | 地質, 土壌 | 土壌は沖積層からなる壤土(小石の多い)から微砂質のもので、アマゾンの一般的な土壌よりは肥沃である。 |
| | 植生, 林相 | 一般にバブス-椰子の疎林であつて、バブス-椰子のない処は灌木類が自生している。 |
| | 気候 | 最高平均 $31.7^{\circ}C$, 最低平均 $23.0^{\circ}C$, 平均 $26.8^{\circ}C$ 年間雨量 $1,813mm$, 湿度80%前後, 乾期7-12月, 雨期1-6月 |

| | | |
|-------|----------|---|
| 社会的条件 | 交通 | サンルイス市(人口約16万人)地区よりBR22国道につながる8m幅の道路が植民地入口より8Kmの地点を通過してよりサンルイス・テレジーナ鉄道間の主要駅であるロザリオ市(人口約8千人)は植民地より1.5Kmの地点に在る。雨期には一部悪路となり自動車の往復に支障をきたす箇所がある。 |
| | 市場 | サンルイス市はマラニオン州の首都で行政, 文化, 産業の中心である。ロザリオ市は郡役所, 中学, 病院等があり, 加工場等には見るべきものがない。附近農産物の集散地である。 |
| | 医療, 教育施設 | 植民地内に小学校あり, 中学はロザリオ市に在る。診療所は植民地内にはないが, ロザリオ市の病院を利用している。年1回事業団嘱託医が巡回診療を行なつている。 |
| | その他 | |

2 入植計画(状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-------|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| | | | | | | | | | | 19 | | | | |
| 総面積 | 600 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 30 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

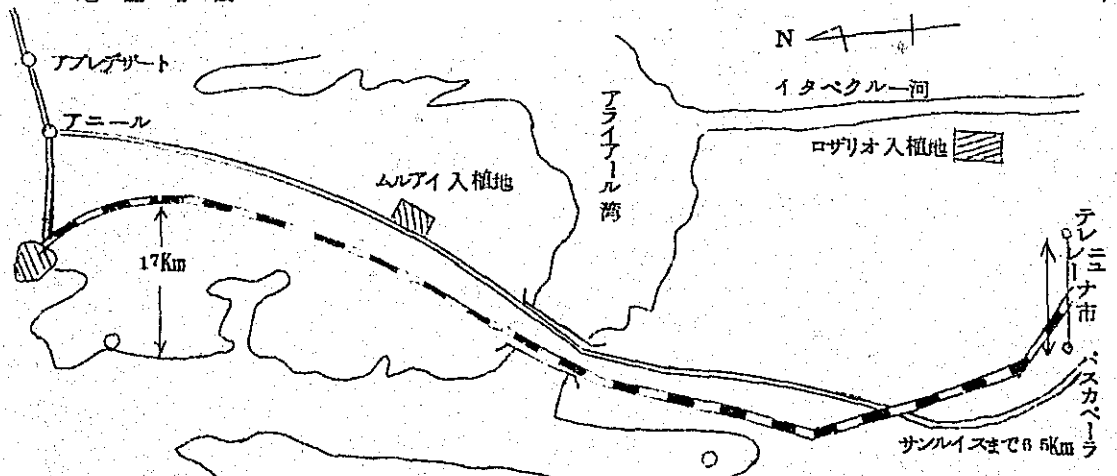
3 営農計画

| | |
|--------|---|
| 主作物 | 短期作物, 米, 野菜, マンジヨカ, 永年作物, ビメンタ, コーヒー, パパス椰子 |
| 営農のすめ方 | 乾期に於ける水源枯渇により、蔬菜栽培が不可能であつたが、低地に井戸を掘れば湧水を得られる場所もあることが判つたので、蔬菜栽培による現金収入にて生活を安定させ逐次永年作物, 主にビメンタに切替える計画である。 |

4 特記事項及び問題点

乾期における水源枯渇と高台地の砂利地が殆んど耕作不能のため一部転耕者を出した。
 現在野菜栽培の希望あり。マリーゼス平原に試作栽培した水稻(蓬い米)が39年に成功し伯国側からも注目されている。

5 地区略図



| | |
|--------|--------------------|
| 地区名 | ムルアイ |
| 移住形態 | 自営開拓農(マラニオン州政府植民地) |
| 受入世話機関 | ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|--------|---|
| 自然的条件 | 位置 | サンルイス市より80Km(緯度2°31'S 44°16'W) |
| | 地形 | 標高4m前後, 地区東北面は緩傾斜をなすが一般に台地状の平坦地である。地区東, 北部を囲むムルアイ河は乾期にも枯渇せず, 枝流の細流がある地区内を流れている。 |
| | 地質, 土壌 | 地質は第3紀層の砂岩, 黄岩よりなり, 礫交り砂土, 又は埴土で交通便利なため, 過去において焼畑利用されて放置されたもので, 土壌背薄である。 |
| | 植生, 林相 | 再生林で, 現在は濳木林となつている。 |
| | 気候 | 最高平均33.5℃, 最低平均21.5℃, 平均26.6℃, 乾期7月~12月 雨期1月~6月 年降雨量1,818mm |

| | | |
|-------|----------|--|
| 社会的条件 | 交通 | サンルイス市よりBR 25号国道に続く整備された道路が植民地内を貫通している。 |
| | 市場 | サンルイス市は, マラニオン州の文化, 行政, 産業の中心地である。主な取引物は, 米, 玉蜀黍, 甘しよ, 植物油脂。 |
| | 医療, 教育施設 | 植民地内に小学校がないため, 事業団貸与のトラックで卵の出荷をかねて18Kmの地点にある, サンルイス市の小学校に通学している。 診療所も植民地にないので, サンルイス市の病院を利用している。年1回, 支部嘱託医が巡回診療を行なつている。 |
| | その他 | |

2 入植計画 (状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | | | | 10 | | | 10 | 11 |
| 総面積 | 200 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 10 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

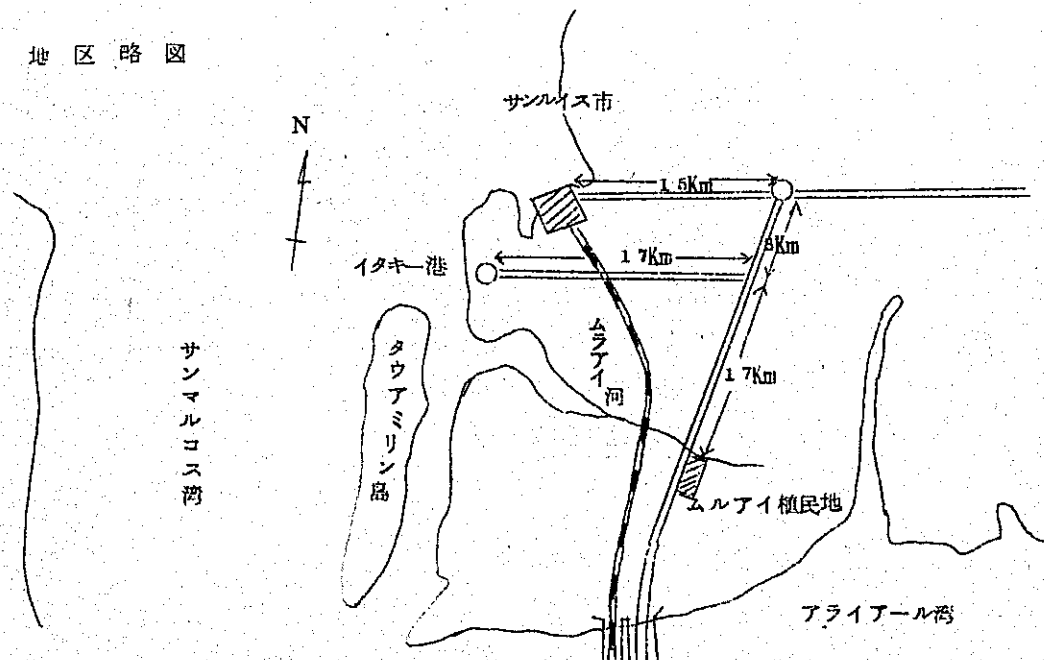
3 営農計画

| | |
|---------|---------------------------------------|
| 主作物 | 養鶏を主体とし、蔬菜栽培を加味した、典型的な都市近郊農業の経営形態である。 |
| 営農のすすめ方 | 現在のさく飼養鶏方式をバッテリー養鶏方式に切替える方向に進んでいる。 |

4 特記事項及び問題点

本入植地は立地条件が良くサンレイス市の消費も増加する傾向にあるので、現金収入が多く堅実な歩みを進めている。

5 地区略図



| | |
|--------|---------------------|
| 地区名 | マタビー |
| 移住形態 | 自営開拓農(アマパー直轄州政府植民地) |
| 受入世話機関 | 事業団 ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|-------|--|
| 自然的条件 | 位置 | マカパ町より12.7km(緯度0.01S ¹ 51°02'W) |
| | 地形 | 花崗岩や片麻岩その他の古期岩類の石礫からなる洪積世の石礫層の台地は極めて平坦,谷の部分にのぞむ所は急傾斜である。 |
| | 地質,土壌 | 土壌は砂礫質のラテライト化土,PH=4.2テラ・ファイルメ地である。 |
| | 植生,林相 | 草地帯から森林地帯へのうつりかわりの地帯の森林の中にある。 |
| | 気候 | 年平均25℃~26℃,関係湿度80以上,雨期12月~6月で平均900mm,乾期7月~11月で平均2mm以下。 年間降雨量 約3000mm(2,610mm) |

| | | |
|-------|---------|--|
| 社会的条件 | 交通 | マカパ町より植民地入口まで平原であつて,各都市との連絡は比較的管理されているが,雨期には交通不能となることが多い。マカパ町より230kmのセーラ・ナグイク鉱山までICOMI鉄道があり,本植民地はその中間に位置し交通至便である。ベレン~マカパ町までは船並びに航空機の便あり。 |
| | 市場 | 消費市場マカパ町入口約25000人。マカパ市より230kmの地点にセーラ・ナグイクにマンガン鉱山があり,活気を呈している。主な取引物は鉱物資源(マンガン)ゴム,生活必需品 |
| | 医療,教育施設 | マカパ町に内科,外科,産科の病院あり。 |
| | その他 | |

2 入 植 計 画 (状 況)

| 入 植 戸 数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定 着 戸 数 |
|-----------|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---------|
| | | | 29 | 21 | | | 1 | 1 | | 3 | | | | |
| 総 面 積 | 4,875 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロ ッ テ 面 積 | 30 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土 地 価 格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支 払 条 件 | | | | | | | | | | | | | | |

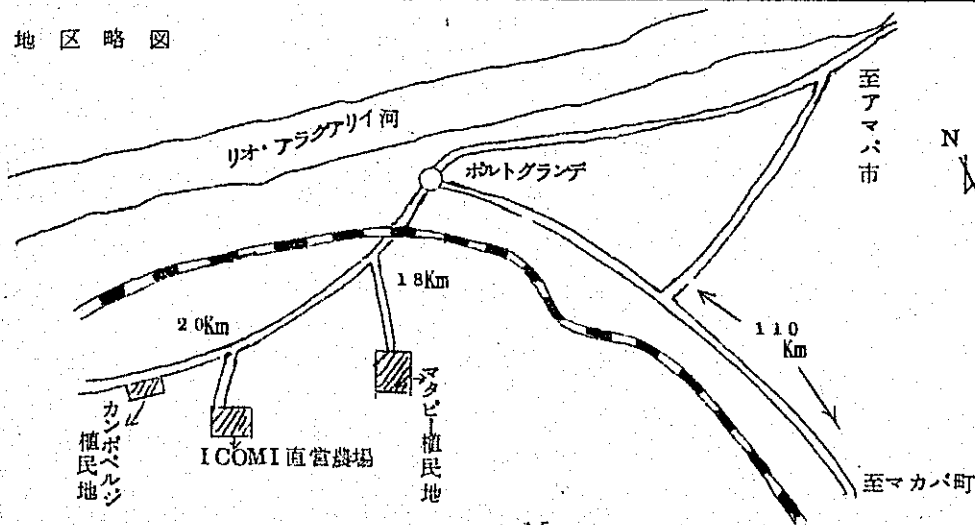
3 営 農 計 画

| | |
|---------|--|
| 主 作 物 | 永年作物, ゴム, ビメンタ, コーヒー, カカオ, 果樹類, 短期作物, マンジョカ 野菜, 米 |
| 営農のすすめ方 | 入植当初はゴムを主体作物としていたが, 近年 ICOMI 鉱山従業員の食糧需要の 増大により野菜栽培, 養鶏に移行しつつあり, 永年作物としてはビメンタ栽培を 主体としている。 |

4 特記事項及び問題点

本植民地は入植当初ゴム植付を強制され, 資金的に行きづまつたためと, 人の和を欠き多数の退耕者を出したが, 残留している者達は近年 ICOMI 鉱山による食糧需要の増大により営農並びに生活も安定しつつある。又, 野菜, 卵等を S E A (水力発電所) に出荷している。

5 地 区 略 図



| | |
|--------|---------------------|
| 地区名 | カンポベルジ |
| 移住形態 | 自営開拓農(アマバー直轄州政府植民地) |
| 受入生活機関 | 事業団 ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|--------|-------------------------------|
| 自然的条件 | 位置 | マカバ町より130Km (緯度001'S 50°01'W) |
| | 地形 | |
| | 地質, 土壌 | マタビー植民地に同じ |
| | 植生, 林相 | |
| | 気候 | |

| | | |
|-------|----------|------------|
| 社会的条件 | 交通 | |
| | 市場 | |
| | 医療, 教育施設 | マタビー植民地に同じ |
| | その他 | |

2 入植計画（状況）

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| | | | | | | | | | | | | 6 | | |
| 総面積 | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

3 営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 永年作物としてビメンダ，短期作物として養鶏，野菜 |
| 営農のすすめ方 | ICOMI 鉱山の食料，蔬菜の需要が多いため，当面は米，野菜栽培を主体としているが，将来にそなえビメンダ，クマルー果樹類の栽培に移行する営農方針をとっている。 |

4 特記事項及び問題点

本人植地は昭和32年マサゴンに入植した移住者が，低湿地帯及び交通不便等の立地条件悪く37年転植したものである。再入植のため資金的に窮乏し事業団の融資をうけ再建に努力しつつある。

8月中旬州政府，ICOMI等の手によつてアマバ産業開発会社（COPRA）が発足し，積極的な産業総合開発を行つていことになる。

（日本人の入植も期待されている）

5 地区略図

マダビー植民地地図参照

| | |
|--------|--------------|
| 地区名 | モンテアレグレ |
| 移住形態 | 自営開拓農(聯邦植民地) |
| 受入世話機関 | ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|-------|---|
| 自然的条件 | 位置 | パラ州モンテアレグレ郡モンテアレグレ町より 3.8 Km (緯度 S 2° W 54') |
| | 地形 | 一般に起伏が多く、中に標高 300 m のイタジュリ一山があり、2.8 の小流曲流し、丘陵地の上に平坦地がある。 |
| | 地質、土壌 | 地質は頁岩、石灰岩及びダイアベース(輝緑岩)が母材となっており。地味良好、PH 6~6.5 |
| | 植生、林相 | モンテアレグレ町附近は、第三紀層とデヴオン系との接触地帯に沿って半広葉から草地への漸移地帯がある。奥地に入るに従って、よく繁茂した森林が広がっている。 |
| | 気候 | 年間平均 27.6℃、最高限 36.3℃、最低 18.5℃ 年降雨量 2,032.3 mm (1959年) 雨期 1月~6月、乾期 7月~12月 |

| | | |
|-------|---------|---|
| 社会的条件 | 交通 | ベレン~マナオス間商業用船及び飛行機の寄港地にモンテアレグレはなっている。町より植民地までは事業団貸与のトラックが往復している。道路は植民地入口附近より悪路となり、雨期には交通不能となることがある。 |
| | 市場 | 消費市場は、モンテアレグレ町は人口 1 萬程度なので、マナオス市を主たる消費市場としている。 取引物 ココ類、ジュート、パラゴム、畜産物、水産物 |
| | 医療、教育施設 | モンテアレグレ町にある S H S P 病院を利用している。年 1 回、事業団支部嘱託医が巡回診療を行なっている。 植民地内に邦人小学校 2、モンテ町に州立並びに教会の小学校各 1 校がある。 |
| | その他 | 支部管轄植民地中最初に法定農桑協同組合が出来た。 |

2 入植計画 (状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-------|--------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|
| | | 23 | 43 | 50 | | | 1 | | | | | | 125 | 33 |
| 総面積 | (ペルテラより移転) 300,000 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 30 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

3 営農計画

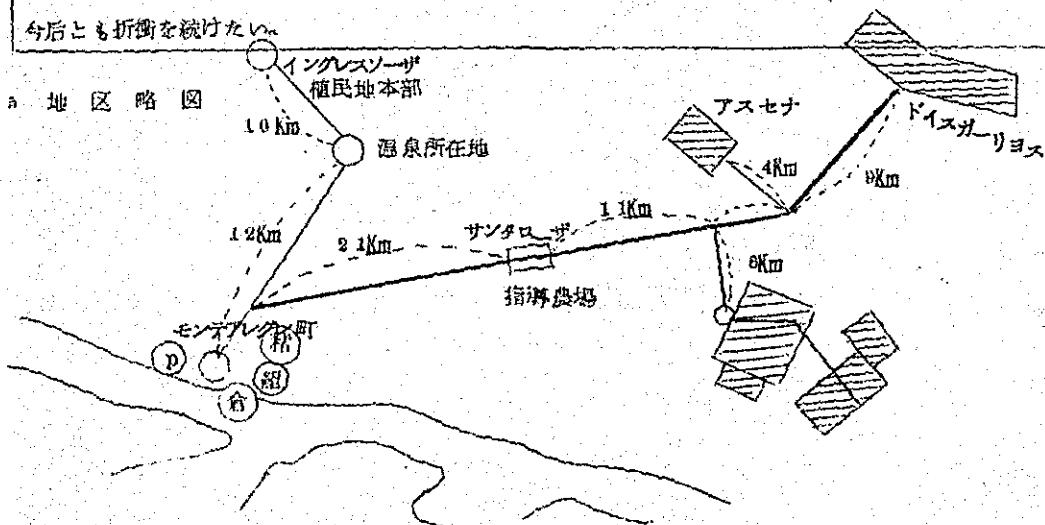
| | |
|---------|--|
| 主作物 | 永年作物 ソム、コーヒー、カカオ、ビメンタ、短期作 米、玉蜀黍、ジユート種子 |
| 営農のすすめ方 | 地味肥沃なため、米、玉蜀黍、ジユート種子等による短期作収入に対する依存度が高かつたため、永年作の導入が遅れたが最近ビメンタ植付増殖を行っている。 |

4 特記事項及び問題点

本入植地の問題点は地元市場が小さく生産物の大部分はマナオス又はペレーンに出荷しなければならぬ。然るにアマゾンの水運は荷役費用が異常になされたため、単価の安い短期作物では大成しがたいので組合強化による生産物の合理的販売と永年作物の育成にある。

また入植地への道路は植民地当局の誠意が従来みられず1~2年后に最悪の状態を招く状況にある。今後とも折衝を続けたい。

a 地区略図



| | |
|--------|--------------|
| 地区名 | ベラビスタ |
| 移住形態 | 自営開拓農(聯邦植民地) |
| 受入世話機関 | 事業団 ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|------|---|--|
| 自然条件 | 位置 | マナオス市より植民地本部まで約100km(緯度S3°06' W60°0') |
| | 地形 | 第三紀段丘地域で平坦な段丘面と段丘をきざむ谷, 比高12~30m傾斜急, 地質は第三紀層の砂岩, 頁岩段丘をきざむ谷底の沖積層。 |
| | 地質, 土壌 | 土壌はラテライト土, ラテライト土砂質, 崖端はテラ・ブレークである。 PH=4.2 テラファイルメ地帯である。 |
| | 植生, 林相 | 直径1m以上の巨木が散在している。降雨林。 |
| 気候 | 年間平均31.4℃, 最高限37.8℃, 最低平均22.7℃ 最低限12.6℃ 絶対湿度28.5℃ 関係湿度81.5 雨量 年平均2,100mm, 最高2,600mm, 1日最高雨量1,202mm 雨期 12月~5月 乾期 6月~11月 | |

| | | |
|-------|----------|---|
| 社会的条件 | 交通 | 植民地本部よりマナオスまで40哩(小艇給で6時間)。カカオベレイラよりアリアウ地区までは3m幅州道が通じており, 事業団貸与のトラックが往復している。 |
| | 市場 | 消費市場マナオス市人口20萬。ポリビア, ペルー, コロンビア及びグエネスエラ諸国への貿易が行なわれている。 主な取引物, 天然ゴム, ジュータ, 木材, 皮革, 植物性油脂。 鉱物資源(石油) |
| | 医療, 教育施設 | 植民地本部に診療所があるも, マナオスの診療所病院を利用している。事業団嘱託医が年一回巡回診療を行なっている。 小学校3(ベラビスタ2, アリアウ1) |
| その他 | | |

2 入植計画 (状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----------|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | 24 | 102 | | | | | | 2 | | 14 | | 140 | 45 |
| 総面積 | 1,500 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 30 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

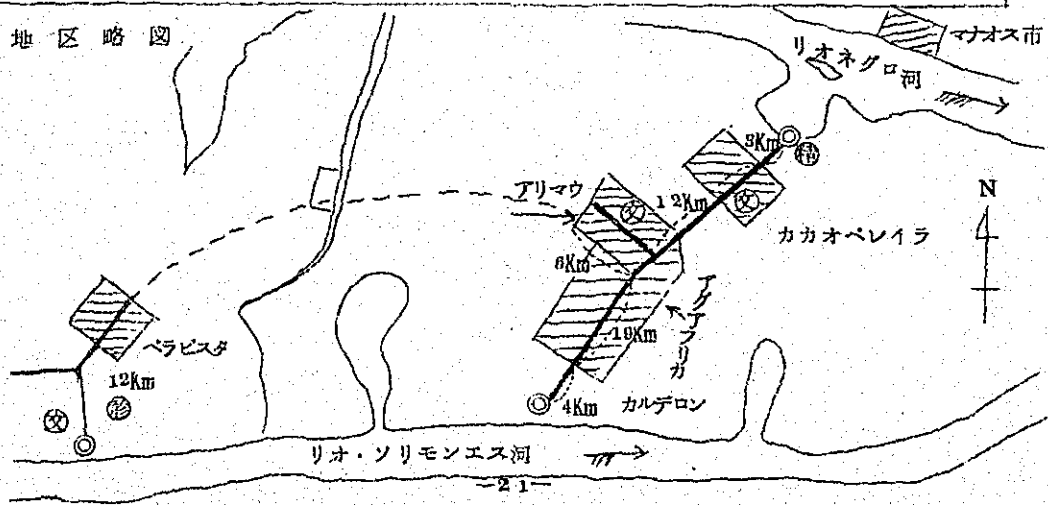
3 営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 永年作物ゴム、コーヒー、ビメンタ、果樹、ココヤシ、短期作物米、豆、マンジョカ、野菜類 |
| 営農のすすめ方 | <p>旧入植者は既に8~10年を経てその経営状況は既に安定している。特に経営形態は永年作(ゴム、カフェー、ガラナー、ビメンタ)が主作となり、之等が既に結果期に入つて居る。今後は作物の栽培技術の研究が必要である。</p> <p>新入植者(37年11月アリアウ地区入植14戸)は1~2年は米、蔬菜、マンジョカ等の短期作により自給食糧体勢を整えつつ永年作移行を目標としている。</p> |

4 特記事項及び問題点

旧入植者は永年の経験により生活に自信をつけたが、新入植者は携行資金の少ない者が大半のため安定も遅い。
組合運営が最も遅れておりこの指導育成が急務である。

5 地区略図



| | |
|--------|--------------------|
| 地区名 | エフゼニオサーレス |
| 移住形態 | 自営開拓農（アマゾナス州政府植民地） |
| 受入世話機関 | ペレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|---|---------------------------------|
| 自然的条件 | 位置 | マナオス市より42km（緯度S 3°1' W 60°0'） |
| | 地形 | 一般に起伏多く、中には急傾斜地もある。テラ・フィルム地である。 |
| | 地質、土壌 | 地質は第三紀層中にあり、黄色の粘土質、低地は砂質粘土。 |
| | 植生、林相 | カスターニヤ樹その他、直径1m以上の巨木が処々に点在している。 |
| 気候 | 年間平均 27.4℃、最高限 36.3℃、最低 24.5℃ 関係湿度 87度（4月） 年間降雨量 1,944.4mm、雨期 11月～翌4月、乾期 5月～10月 | |

| | | |
|-------|---------|--|
| 社会的条件 | 交通 | 植民地内には、マナオス～イタコチアラ道路が通じており、アスファルト舗装である。 事業団貸与のトラックが往復している。 |
| | 市場 | 消費市場、マナオス市人口20萬、ポリビア、ペルー、コロンビア及び ヴェネズエラ諸国への貿易が行なわれている。 主な取引物 天然ゴム、ジュータ、木材、皮革、植物性油脂、 鉱物資源 石油 |
| | 医療、教育施設 | 植民地内に診療所なく、マナオス市の州指定病院にて治療。 事業団嘱託医が年1回巡回診療を行なう。 小学校2（植民地内） |
| | その他 | |

2 入植計画 (状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | 17 | 8 | 16 | 16 | | | 58 | 57 |
| 総面積 | 575 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 25 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

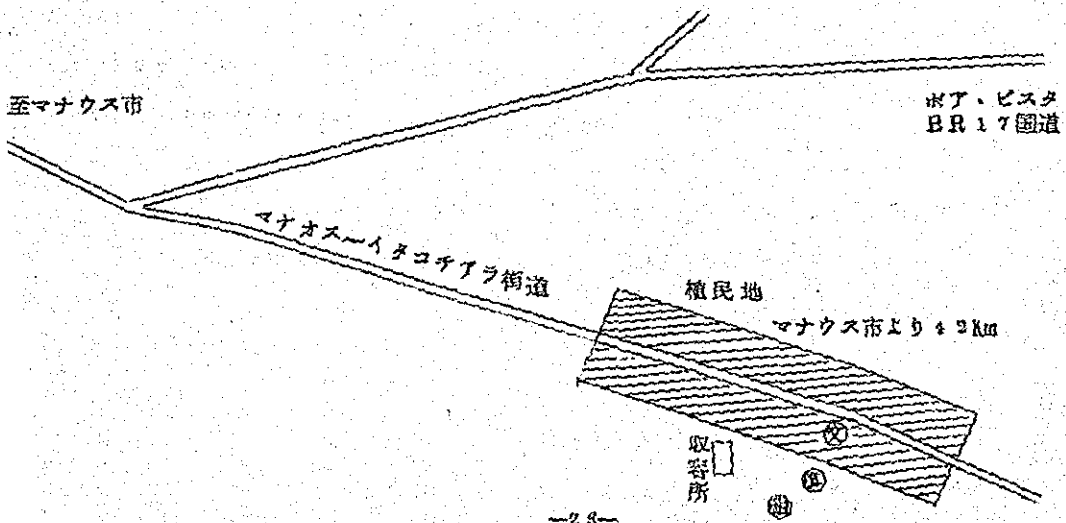
3 営農計画

| | |
|---------|--|
| 主作物 | 永年作物 ゴム、ビメンタ、グワラナ、果樹、短期作物 野菜、米、マンジョカ |
| 営農のすそめ方 | 現在マナオス市へ供給する野菜栽培を主体とし、永年作物としてビメンタ、グワラナ、果樹類を増殖しつつあるが、将来は永年作を主体とする方向へ進みつつある。 |

4 特記事項及び問題点

営農は安定の方向に向いつつあるが今は飲料水の問題、組合強化の要がある。
 本邦より移住者誘入の計画があるその適地調査については、現状からみて慎重になすべきである。

5 地区略図



| | |
|--------|---------------------|
| 地区名 | タイアーノ |
| 移住形態 | 自営開拓農（ロライマ直轄州政府植民地） |
| 受入世話機関 | ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|--|--|
| 自然的条件 | 位置 | ポアビスタ市より9.4km（緯度N 8°05' W 60°40'） |
| | 地形 | 比高数10メートルの残丘地，周囲は200～300の山地である。 |
| | 地質・土壌 | 地質は塩基性岩及び花崗岩の風化した赤色漂白化土（粘土質）残丘頂部露岩 PH=5.4～7.0 |
| | 植生，林相 | 中位の密林地帯である。サグアンナ地帯の森島に展開する地域である。胸高直径2m程度の大木，建築材，家具材として重要されている。 |
| 気候 | 年間平均27.7℃，最高限34.5，最低平均24.5，最低限25℃ 関係湿度78（7月） 雨量年間2,462.1mm（1958），雨期5月～8月，乾期9月～4月 | |

| | | |
|-------|---------|---|
| 社会的条件 | 交通 | 本植民地の交通はポアビスタ市より9.4km，陸路とウラリコエラ川を利用した船便とであるが，道路は雨期には不能となる。 マナオス～ポアビスタ間道路建設中 |
| | 市場 | 消費市場 ロライマ州首府ポアビスタで人口1万4千人，ヴェネゼーラ，英領ギアナとの辺境取引がある。ダイヤモンド（月産1,500カラット）砂金，畜産物食糧品が取引される。 |
| | 医療，教育施設 | 地区中心部に公立小学校，診療所 |
| | その他 | ポアビスタ市には病院，中学校，女学校，師範学校，発電所がある。 |

2 入植計画 (状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | 11 | | | | • | | 0 | | | 20 | 14 |
| 総面積 | 2,000 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 30 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

3 営農計画

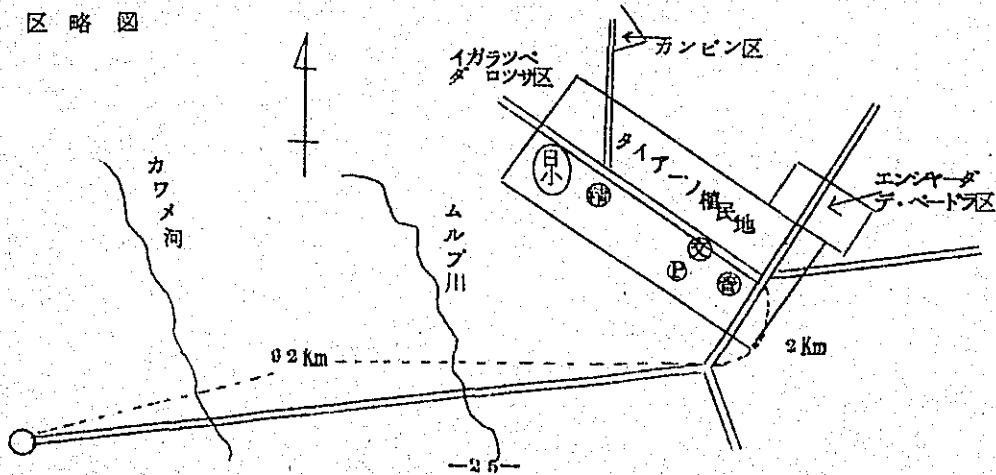
| | |
|---------|---|
| 主作物 | 永年作物 ビメンタ, 短期作 米, マンジョカ, 玉蜀黍, 豆, 落花生 |
| 営農のすゝめ方 | 本植民地は地味肥沃であるため, 米, 玉蜀黍, マンジョカ等の短期作物は無肥料栽培で7, 8年収量が落ちぬため, 自給体勢は出来るが, 永年作物としての胡椒栽培が, 耕地に傾斜地多く且つ乾期が長いため疑問があり, 他に有利な永年作を研究中である。 |

4 特記事項及び問題点

本入植地の根本的な欠陥は市場の小さい事と, 乾期の長い事及び交通不便(雨期の交通杜絶)で, 基本的な欠陥をもっている。これに対して支部としては,

- (1) 共同牧場の勸奨
- (2) カワメ河の橋梁架設が長年の懸案であつたが1965年2月州政府により橋梁架設が完了した。
- (3) マナオス市への出荷研究等の対策をたてている。

5 地区略図



| | |
|---------|----------------------|
| 地 区 名 | トレーゼデセテンプロ |
| 移 住 形 態 | 自営開拓農（ロンドニア直轄州政府植民地） |
| 受入世話機関 | ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------------------|---|--|
| 自然 的 条 件 | 位 置 | ポートベリヨ市より9km（緯度S 8° W 69°） |
| | 地 形 | 第三紀層段丘地域で平坦な段丘をきざむ谷，比高12～20m傾斜急である。 |
| | 地 質，土 壤 | 地質は第三紀層の砂岩，頁岩，段丘をきざむ谷底の沖積層，土壌はラテライト化土PH=4.2 砂質土。崖端にテーラ，プレータ黄色土等である。テーラ・フィルム地帯。 |
| | 植 生，林 相 | 熱帯性多雨林で30m程度の巨木の密生する原始林。カスタニア，その他直径1m以上の巨木が密生している。 |
| 気 候 | 年間平均25.6℃，最高限33.8℃，最低限15℃ 関係湿度 90度（1，2，8及び12月） 雨量 年間2,292.1mm（1958年），雨期11月～翌4月， 乾期5月～10月 | |

| | | |
|-----------------------|---------|---|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | ポートベリヨ市より植民地入口まで9km，邦人耕地まで11km，事業団貸与トラック1台が市と植民地を往復している。道路は他移住地に比較し良好，昨年南伯に通ずるBR 29国道が開通した。 |
| | 市 場 | 消費市場，州都ポルトベリヨ市，人口約20,000，マナウス市（人口18万）までは航路約1,500km，ゴム，カスタニアを集散し，アマゾナス州マナオス市と取引がある。 |
| | 医療，教育施設 | ポルトベリヨ市の病院を利用している。年1回事業団嘱託医が巡回診療を行つている。 小学校移住者の共同作業にて建築したもの1校がある。 |
| そ の 他 | | |

2 入植計画（状況）

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-------|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| | | | | 20 | | | | | | | 2 | | | |
| 総面積 | 1.750 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 27 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

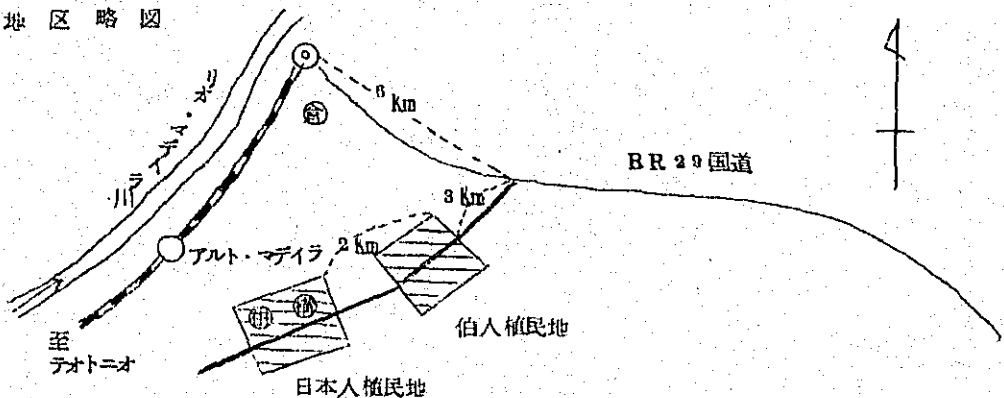
3 営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 永年作物 ゴム、コーヒー、ビメンタ、かんきつ、バナナ、果樹一般 短期作物 米、玉蜀黍、豆、マンジョカ、マカセラ、野菜 |
| 営農のすすめ方 | 蔬菜、果物、養鶏にて生計を立て、胡椒栽培にて経営を安定させるべく胡椒の増殖を行なっている。 |

4 特記事項及び問題点

入植当初ゴム作付の規制を受け、而も数回の山火事により一時は貧窮の極にあつたが、3年前より、折から着工されたBR 29 国道建設工事によつて同地方がにわか活況を呈して来たことと本植民地に対する蔬菜、果物、鶏等の需要の急増となつて現われ、植民地経済向上の気運となつた。現在はこれらを収入源として、胡椒の増殖を行なつており、胡椒の出荷市場もBR 29 国道による交通機関を利用し南伯市場を予定している。

5 地区略図



| | |
|--------|--------------------|
| 地区名 | キナリー植民地 |
| 移住形態 | 自営開拓農（アクレ直轄州政府植民地） |
| 受入世話機関 | ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|-------|--|
| 自然的条件 | 位置 | リオ・ブランコ市東方28Km (S 9°00 W 67°-00) |
| | 地形 | 概めて平坦な波状地，小川が数本地区内を通つている。 テーラ、フィルメ地帯である。 |
| | 地質，土壤 | 地質は第三紀層，黄色の埴土，場所によりテーラ・ロシア地帯あり。 地味肥沃，一般に酸性 |
| | 植生，林相 | |
| | 気候 | 年平均気温25.8℃，特殊気象（アンデス山脈より風下す 寒風が乾期に時々訪れる）あり，関係湿度 93度（5月），82度（9月） 雨量 年平均1,679mm，乾期5月～10月，雨期11月～翌4月。 |

| | | |
|-------|---------|---|
| 社会的条件 | 交通 | 本植民地より，リオ・ブランコ市まで28Km，乾燥期の5月より12月までは比較的よいが，1月より4月までは雨期のため道路悪化，交通困難である。 |
| | 市場 | 信託市場 アクレ州首都リオ・ブランコ市，人口2万人で，雨期は200トン級の船が来航するが，乾期は減水のため小型船しか来航せず。 |
| | 医療，教育施設 | 植民地内に診療所なく，看護夫1人がキナリー村に駐頓している他は，年1回支部嘱託医が巡回診療を行なつている。 植民地内に小学校があり，リオ・ブランコ市に中学校がある。 |
| | その他 | |

3 入植計画 (状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-------|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| | | | | | | | | 13 | | | | | 13 | 7 |
| 総面積 | 1,500 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 30 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

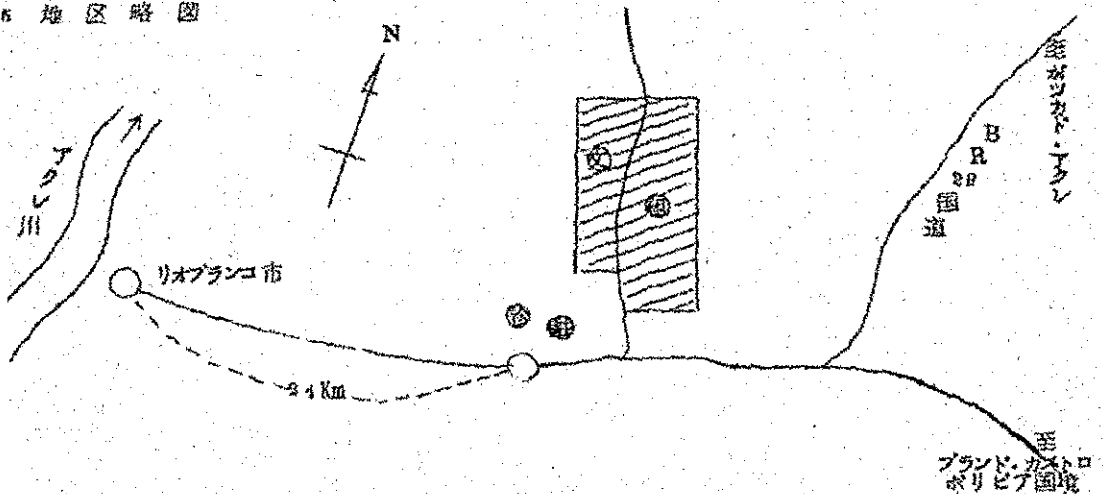
3 営農計画

| | |
|--------|---|
| 主作物 | ゴム, カプエー, カスタニア, 胡椒, 果樹類, 米, ミーリオ, 豆, マンジョカ |
| 営農のすめ方 | 土地条件が良いため, 従来短期作中心の営農態をとつて来たが, 毎年原始林を伐採することによる労働の問題, 耕地の有効利用の観点から永年作物の栽培に移行しつつある。 |

4 特記事項及び問題点

農業経営の問題より経済環境としての生産物の市場関係及び交通輸送関係の問題がある。
 入植者間の利に欠けているため農協も解散したことは憂慮すべきことである。(本年8月)
 最近の調査では営農上のゆきづまりもあつて最終的に残留するのは8家族と予想され, 4家族は近々転耕したい意向であり, これに伴う貸与物件の管理方法等今後の課題は大きい

5 地区略図



| | |
|--------|-----------|
| 地 区 名 | エストラーダノーバ |
| 移住形態 | 自営開拓農 |
| 受入世話機関 | 事業団 ベレン支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------------------|-------|--|
| 自然 的 条 件 | 位 置 | サンルイス市より28km 2°15' S 44°W |
| | 地 形 | 入植地中央部に巾5m~7m長さ800m位の湿地がある。この湿地を中心として南北になだらかな傾斜をなしている。標高4m |
| | 地質・土壌 | 総体に砂質であり表層は腐植質に富む。 |
| | 植生、林相 | 再生林でパブサーが相当多数あり他は灌木程度。 |
| | 気 候 | 最高平均33℃, 最低平均21℃, 平均26℃ 年間降雨量2,700mm程度 乾期7月~12月, 雨期1月~6月 |

| | | |
|-----------------------|---------|--------------------------|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | サンルイス市まで38kmの道路によつて交通する。 |
| | 市 場 | サンルイス市が消費市場となる。 |
| | 医療、教育施設 | 学校・医療とも、サンルイス市の施設を利用する。 |
| | そ の 他 | |

2 入 植 計 画 (状 況)

| 入 植 戸 数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-----------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| | | | | | | | | | | | 8 | 2 | 10 | 10 |
| 総 面 積 | 180ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロ ッ テ 面 積 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土 地 価 格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支 払 条 件 | | | | | | | | | | | | | | |

3 営 農 計 画

| | |
|---------|---|
| 主 作 物 | 永年作物 ビメンタ, ココヤシ, 果樹類 短期作物 米, マンジョカ, 野菜 |
| 営農のすゝめ方 | 転耕后まだ2年余りのため, 農業経営の基盤が確立されておらず, サンルイス市へ出荷する野菜を主として現金収入を得ているが, 徐々にビメンタ等の永年作物に切替え, 将来の安定を計る要あり。 |

4 特記事項及び問題点

本入植地は, ロザリオ及びピオ12世より各4家族転耕した計8家族によつて37年に設立された。未だ営農成績も良好といえず, 組合活動等の面に於ても, 指導すべき面が多い。

中 伯

| | |
|---------|-------------|
| 地 区 名 | ピオ12世 移住地 |
| 移 住 形 態 | 自営開拓農（連邦政府） |
| 受人世話機関 | レンシーフェ支部 |

1 地 区 概 要

| | | |
|-----------------------|-------|---|
| 自 然 的 条 件 | 位 置 | S 4°10' W 38°48' |
| | 地 形 | 標高30m～40mの高台地，緩傾斜地，低地よりなる大きな波状地形 |
| | 地質・土壌 | 花崗岩系の母材からなる 土又は砂質土 |
| | 植生，林相 | 既こん地550haの他 木林，貯水池，荒地が存在する。 |
| 件 気 | 候 | 気温最高平均 29.3℃ 最低平均24.8℃ 雨量年平均 800～1,000mm 乾期 8～1月 雨期 2月～7月 |

| | | |
|-----------------------|---------|---|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | （ガイウバ町）地区西方8kmにあり，フォルタレイザ市よりパライバ市に至る鉄道にある。フォルタレイザ市（セアラ州の州都）北方48km ガイウバ町まで鉄道約40km |
| | 市 場 | フォルタレイザ市が専らの市場である。 |
| | 医療，教育施設 | 地区内に小学校があり，診療所は地区内にはない。 ガイウバ町には医者が居り，フォルタレイザ市には総合病院がある。 |
| | そ の 他 | 移住地事務所，集会所，トラックがある。 |

2 入植計画 (状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | | 8 | | | | | 8 | 6 |
| 総面積 | 1,390 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 25 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 25万円 住宅 20万円 | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 2年据置 10年々賦 | | | | | | | | | | | | | |

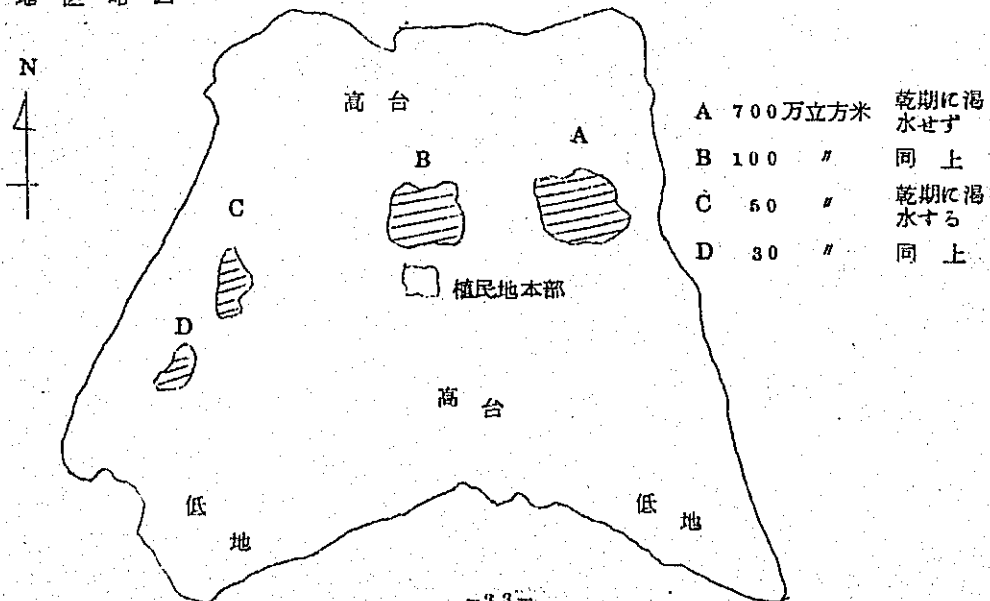
3 営農計画

| | |
|--------|--|
| 主作物 | 永年作物 ビメンタ、ジュート、カシュー 短期作物 メロン、スイカ、トマト、キャベツ、玉ネギ、フエジョン |
| 営農のすめ方 | 地力増進のため有畜農等が必要である。都市供給果樹蔬菜を中心とし営農しながら、永年作物の植付を行う。 |

4 特記事項及び問題点

地下水位が低く、塩分含有量が高く、飲料水に適さない。従つて飲料水の確保に努力を要する。
永年作物の適種を発見する必要がある。

5 地区略図



| | |
|--------|-------------|
| 地区名 | ブナウ移住地 |
| 移住形態 | (卅政府) 自営開拓農 |
| 受入世話機関 | レシーフェ支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|-------|--|
| 自然的条件 | 位置 | 5°30' S 35°40' W リオグランデ・ド・ノルテ州 |
| | 地形 | 地区中央部低地は西から東にフォンセカ河が流れ、地区南北部は緩傾斜丘陵地となつている。 低地標高8m 高地20~30m 土層3~5m PH5~5.5 |
| | 地質・土壌 | 低地は有機質の、黒色沖積土で、高地は砂土である。 |
| | 植生・林相 | 低地は一般に草原でまばらに灌木が自生し根も浅い。 高地は、ココヤシ、マンガバ、パアヤ等が自生している。 |
| | 気候 | 最高平均28.4℃ 最低平均20.6℃ 平均26.2℃ 乾期 9月~2月 雨期 3月~8月で年間雨量は約1,500mm |

| | | |
|-------|---------|---|
| 社会的条件 | 交通 | セアラミリン市人口 5千 地区南方45km ナタール市人口 約16万 地区南方86km 州都 |
| | 市場 | ナタール市で本地区の最大市場 |
| | 医療、教育施設 | 診療所は地区内にないが、セアラミリン市、ナタール市には病院がある。 小学校が地区内にある。 |
| | その他 | |

2. 入植計画 (状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-----------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | | 9 | 4 | | | | 13 | 11 |
| 総面積 | 1,365 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 12 ha 低地 5 ha 高地 5 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

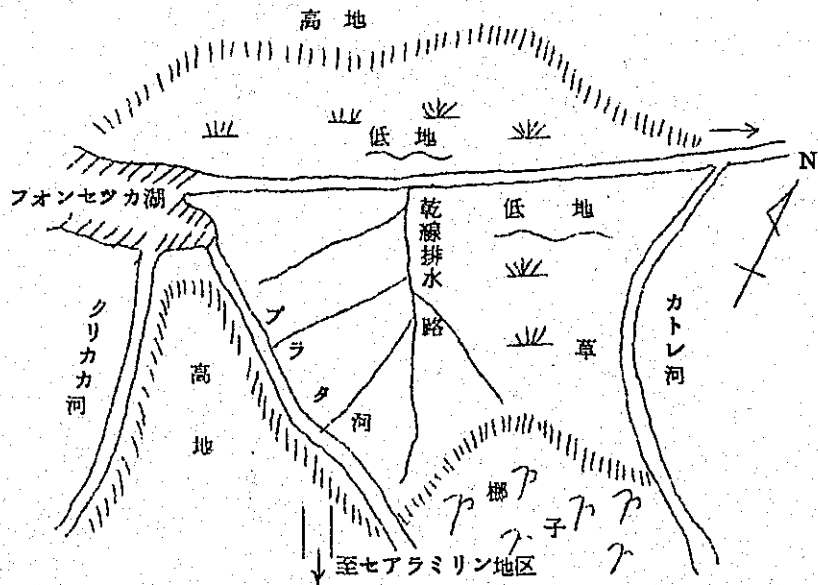
3. 営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 短期作物 米, 蔬菜, 豆類 永年作物 ココヤシ, パインアップル |
| 営農のすすめ方 | 低地は12ヶ月間の同年生産を企画 第1に排水, 次いで, 排水位の酸性改良化学肥料, 特にP・Kの施用が望ましい。1世帯当り低地5町歩を米作にあてこれを営農の根幹とする。米以外には, 中生期作物 永年作物のほか, 鶏, 豚も飼育する。 |

4. 特記事項及び問題点

昭和38年及び39年, 脱耕問題で, 一時混乱したが, 今後は当移住地対策の総合的検討が要求される。
各戸の営農成績に大きな格差があるため, 立遅れているものに対しては十分な資金援助を必要とする。管理機関が州政府から宗教団体に移行したことに問題がある。

5. 地区略図



| | |
|--------|-------------|
| 地 区 名 | ピウン植民地 |
| 移住形態 | (州政府) 自営開拓農 |
| 受入世話機関 | レシーフエ支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------------------|-------|---|
| 自然 的 条 件 | 位 置 | 5°55' S 35°10' W |
| | 地 形 | 標高20~50m 河岸の湿地帯とそれに連なる、緩傾斜高台地からなる。 |
| | 地質・土壌 | 低湿地は砂交り粘土の有機質の土壌、高台地は砂礫土 |
| | 植生、林相 | 湿地には蒲類、高台上は疎林、高台中腹はやや密な再生林となっている。 |
| | 気 候 | 最高平均30.2℃ 最低平均18.9℃ 平均26.7℃ 雨量 約1,500mm 湿度 71.5% |

| | | |
|-----------------------|---------|--|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | ナタール市、地区北方90km 人口 1.6万 州都 バラナミリン市 地区北西 15km |
| | 市 場 | ナタール市を対象とする。 |
| | 医療、教育施設 | 小学校がある。病院はナタール市 |
| | そ の 他 | 地区内は共同井戸がある。住宅は高台に州政府の手によって建設された。 |

2 入植計画 (状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---------------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | 9 | | | | | | | 9 | 10 |
| 総面積 | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 25 ha (正確には14 ha) 家屋 63m ² | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 46,000クルゼイロス | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 4年据置 4ヶ月々賦 | | | | | | | | | | | | | |

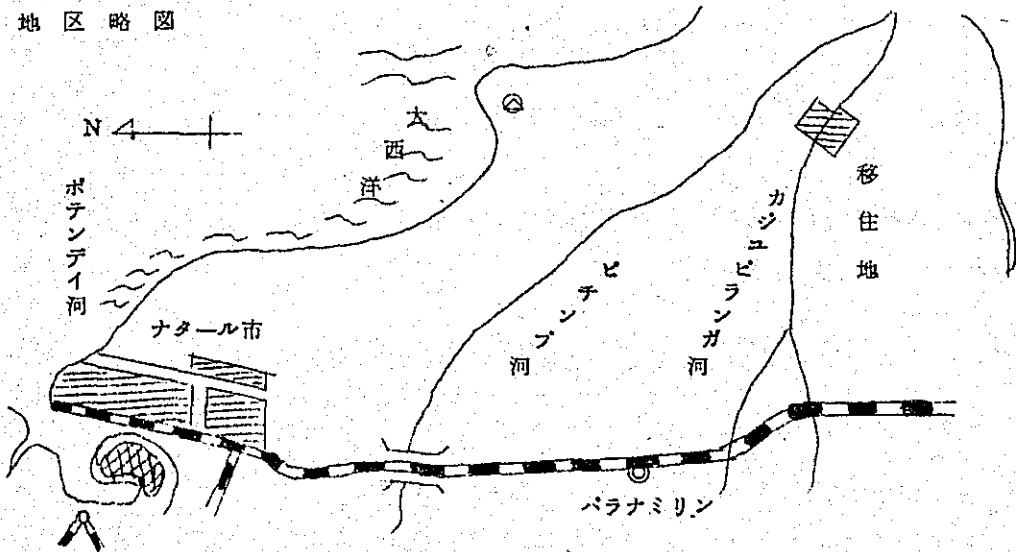
3 営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 短期作物 米, 蔬菜(特にメロン) 永年作物 パナナ |
| 営農のすすめ方 | 低地帯においては米作, 高台地の中腹には蔬菜メロン, パナナ等の栽培に利用される。 |

4. 特記事項及び問題点

82年3月連邦農務大臣は日本人入植者の努力に感激, 10haの土地を寄贈した。
排水施設の完備が急務であるが40年1月から州政府が浚渫工事を開始した。低地は雨期になると、水びたしとなる。非常に優秀な農家ばかりなので、将来に明るい希望をもつて、営農している。

5. 地区略図



| | |
|--------|----------------|
| 地区名 | リオボニート植民地 |
| 移住形態 | 自営開拓農（州及び連邦政府） |
| 受入世話機関 | レシーフエ支部 |

1. 地区概要

| | | |
|-------|-------|--|
| 自然的条件 | 位置 | 8°29'S 35°41'W |
| | 地形 | 標高600~800m 全体として起伏の多い地形 |
| | 地質・土壌 | 土質は砂質壤土（高所）であるが谷間には植質砂土ないし壤土が拡つている。 |
| | 植生・林相 | 傾斜の多い森林部が多い。森林資源は豊富である。 |
| | 気候 | 最高平均28℃ 最低平均18℃ 雨量780mm 流水の量は降雨量に比し湧水の関係もあり豊富である。 |

| | | |
|-------|---------|---|
| 社会的条件 | 交通 | レシーフエ市より西方へ完全舗装国道を10.0kmフェゼロスより州道を30kmでボニート市に達する。移住地よりボニート市までは7km |
| | 市場 | レシーフエ市を対象とし菜類の供給源とする。 |
| | 医療・教育施設 | ボニート市に小中学校がある。又病院に診療所も完備している。地区内にも小学校がある。 |
| | その他 | 地区中心に事務所、倉庫、製粉所があり地区内道路もよい。 |

2. 入植計画（状況）

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | 5 | | 9 | | | | 14 | 15 |
| 総面積 | 1,380 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 25 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 75,000クルゼイロ 約15万円 | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 2年据置 10年々賦 | | | | | | | | | | | | | |

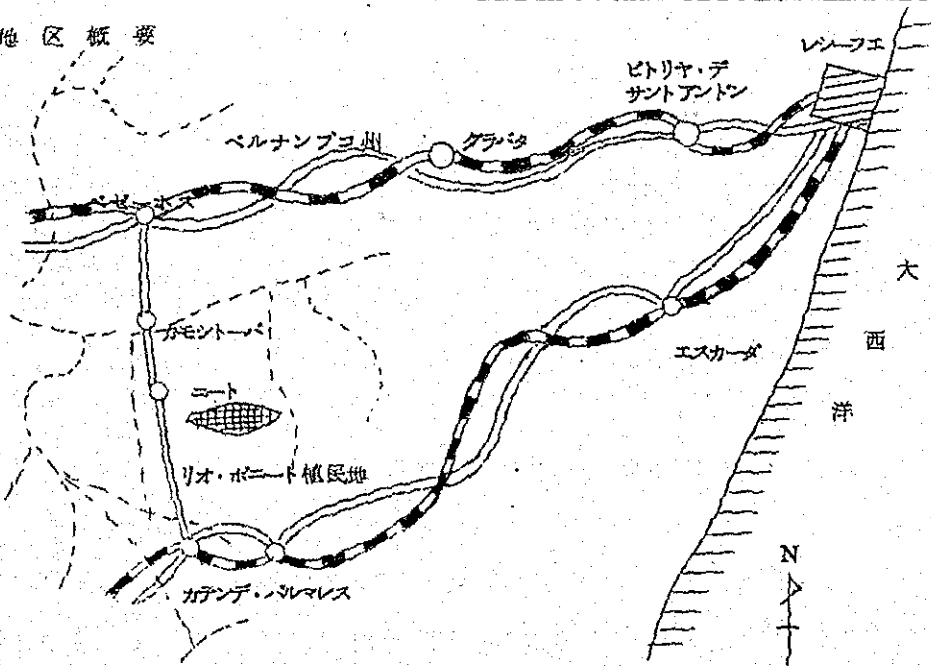
3. 営農計画

| | |
|-------|------------------------------|
| 主作物 | マンジョカ、バナナ、野菜、マラクジヤ、柑橘、パイナップル |
| 営農の中心 | 野菜を組合わせてマラクジヤ、西瓜が営農の中心となる。 |

4. 特記事項及び問題点

ポニート市より移住地までの道路が非常に悪く30年の水害で決壊し、出荷に支障を来している。

5. 地区概要



| | |
|--------|-------------|
| 地 区 名 | ウナ植民地 |
| 移住形態 | (連邦政府)自営開拓農 |
| 受入世話機関 | レンシーフェ支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------------------|-------|--|
| 自然 的 条 件 | 位 置 | 15°S 39°W |
| | 地 形 | 標高50~100m地区内小河川あり。河川流域は低湿地を形成している。 河川を速さからにしたがつて、稍急勾配をへて、高台地にいたる。 |
| | 地質・土壌 | 傾斜地、高台地は第3紀層の砂質又は礫質の土壌からなり、低地は有機質の多い土壌からなる。 |
| | 植生・林相 | 海岸森林地帯に属し、地区周辺は森林である。 カカオその他高温湿下に生育する植物が繁茂している。 |
| | 気 候 | 最高平均29.4℃ 最低平均18.6℃ 年間雨量2,100mm |

| | | |
|-----------------------|---------|--|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | 地区内に小型飛行場あり 地区よりウナ町までは10Km ウナ町ーイタブーナ市 120Km ウナーイリエウス 150Km ウナーサルパドール市 640km |
| | 市 場 | イタブーナ市 イリエウス市 |
| | 医療・教育施設 | 学校、診療所、薬局がある |
| | そ の 他 | 事業本部、教会、収容所、修理工場、発電所等がある。 |

2. 入植戸数 (状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | 26 | | | 11 | 1 | | | | | | | 38 | 20 |
| 総面積 | 5404 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 30 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 30~45 コントス | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 3年据置 10年々賦 | | | | | | | | | | | | | |

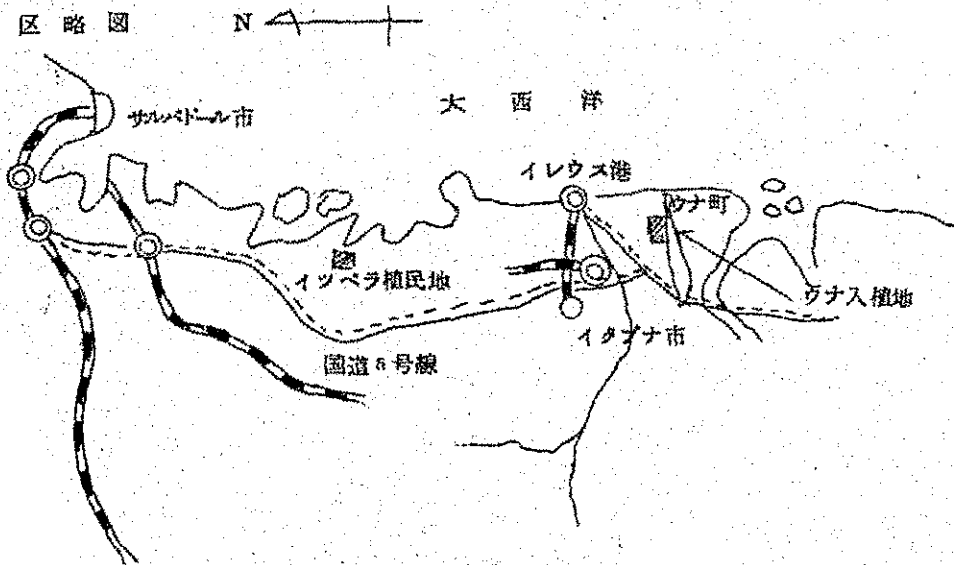
3. 営農計画

| | |
|---------|--|
| 主作物 | 永年作物 ゴム, カカオ, ビメンタ 短期作物 米, トウモロコシ, 蔬菜, フェイジョン |
| 営農のすすめ方 | 現在 1家族平均 3000本のゴムを植付けている。 |

4. 特記事項及び問題点

ゴムの収穫期に入るまで、銀行融資にたよらなければならない。
 地権、境界線の問題を解決する要あり。
 入植者の内11戸は既にゴムの採液可能であり、タツピングを開始している。

5. 地区略図



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | イツペラ植民地 |
| 移住形態 | (州政府)自営開拓農 |
| 受入世話機関 | レンシーフエ支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------------------|-------|--|
| 自然 的 条 件 | 位 置 | 13°45' S 89°15' W |
| | 地 形 | 標高160~230m 全体に起伏あり、水流に恵まれている。 |
| | 地質・土壌 | 赤道熱帯性、ラテライト、鉄分の含有が多く礫土ないし砂質壤土 |
| | 植生・林相 | 原生林、再生林あり、林相は相当厚く、有用材も含まれる。 |
| | 気 候 | 最高平均27.8℃ 最低平均 24.2℃ 年間雨量 2100mm |

| | | |
|-----------------------|---------|---|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | イツペラ町(人口5千)まで10km パレンサ(2万)まで52km イツペラ町よりサルバドール市まで 130km(海上) |
| | 市 場 | サルバドール市、イツペラ町、パレンサ市が市場となる。 |
| | 医療・教育施設 | イツペラ町に病院があり、厚生省の出張所もあるパレンサ市にも入院可能な病院あり。地区内には小学校がある。 |
| | そ の 他 | 地区内には電気が入り、燈用、動力用に使用されている。 |

2. 入植計画 (状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-------|------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| | | | | | | 6 | | | | | | | | 8 |
| 総面積 | 5,000.0 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 20 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 10万クルセイロス | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 2年据置 10年々賦 | | | | | | | | | | | | | |

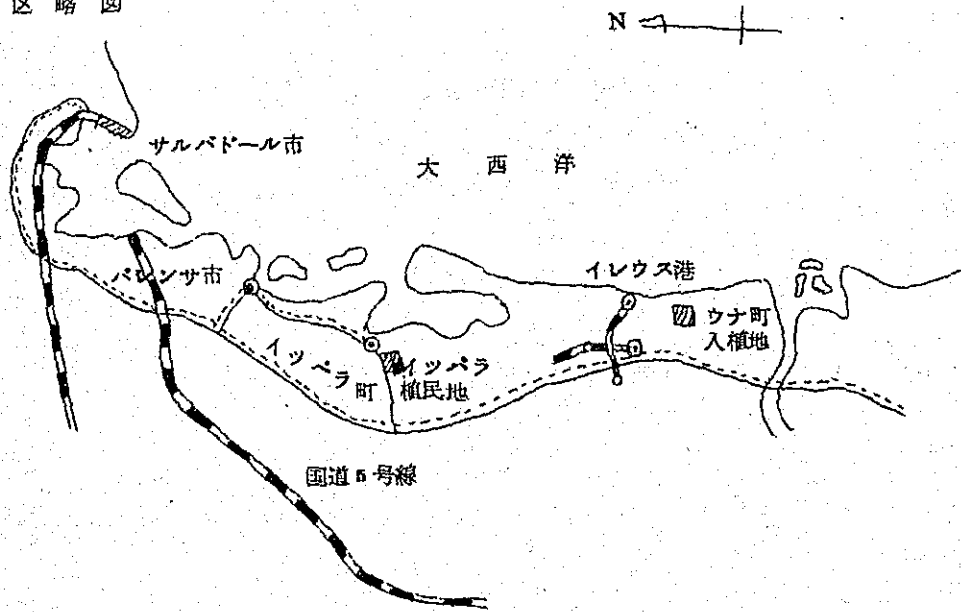
3. 営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 短期作物 マンジョカ, トマト, ピーマン, キヤベツ, 永年作物 ゴム, 油桐子, 丁字, ラランジャ |
| 営農のすすめ方 | 早期安定を考えてなるべく早く永年作物を植栽する必要がある。 |

4. 特記事項及び問題点

生産物の販路としての市場が狭少である。

5. 地区略図



| | |
|---------|------------|
| 地 区 名 | クビチエツク植民地 |
| 移 住 形 態 | 自営開拓農(州政府) |
| 受入世話機関 | レシーフエ支部 |

1 地区概要

| | | |
|-----------------------|-------|---|
| 自 然 的 条 件 | 位 置 | 12°40' S 38°40' W |
| | 地 形 | 標高は最も高い所で100m 全体にある程度起伏のある丘陵地 |
| | 地質・土壌 | 全般に砂質壤土でマサツベ(水成岩の風化土壌でテラロンヤに次いで肥沃であり、腐殖にも富んでいる)のところが相当ある。 |
| | 植生・林相 | 林相は厚く、再生雑木林 |
| | 気 候 | 最高平均28.3℃ 最低平均22.2℃ 雨量1,800mm |

| | | |
|-----------------------|---------|--|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | マタ・デ・サンジョアン市まで6km サルバドール〜マタ・デ・サンジョアン間は鉄道連絡がある。 サルバドール市〜パイア州々都人口約70万 移住地より約80km |
| | 市 場 | サルバドール市が主な市場となる。 |
| | 医療・教育施設 | 地区内に診療所兼病院、小学校がある。 |
| | そ の 他 | |

2 入 殖 計 画 (状 況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|---------------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------------|----|---|---------|
| 入 殖 戸 数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定 着 戸 数 |
| | | | | | | | 5 | 44 | 25 | 30 | 5 (ドミニカ) | | | |
| 総 面 積 | 2,600 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | イタビシリカ地区 2.5 ha サンベトロ地区 2.0 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 150~200コントス 30~40万円 住宅 60㎡ 20万円 | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 2年据置 10年賦 | | | | | | | | | | | | | |

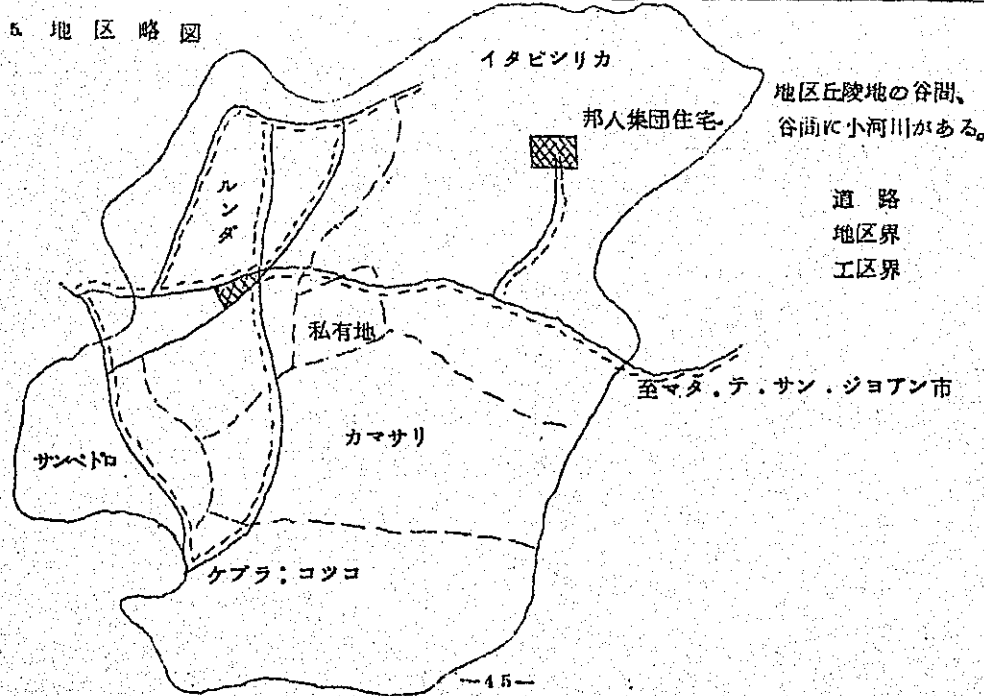
3 営 農 計 画

| | |
|---------|---|
| 主 作 物 | 短期作物 野菜、米 永年作物 柑橘、カカオ、タバコ、パイナップル 丁字 |
| 営農のすすめ方 | 早期安定を計るため永年作物を早期に植栽することが近道であり、その収穫 までの間短期作物にあわせて養分を取り入れることが望ましい。 |

4 特記事項及び問題点

ドミニカよりの転住者も含めて比較的営農成績が良く安定している。
土地代支払い融資を望む声があり善処する必要がある。39年の異状降雨により地区内道路が寸断され応急修理中である。地権は本年度より交付を開始された。

5 地 区 略 図



| | |
|--------|--------------|
| 地区名 | フンシャル移住地 |
| 移住形態 | 自営開拓農(事業団) |
| 受入世話機関 | リオ・デ・ジャネイロ支部 |

1. 地区概要

| | | |
|------|---------------------------------|--|
| 自然条件 | 位置 | リオ・デ・ジャネイロ州 カシヨエイラ郡 ジャブイバ |
| | 地形 | 標高低地 30m 丘地 80~90m 地区の西北及び東北境界線にやや高い峰がある以外は約50~60mの小丘が全域に散在しその間を小川が流れ低地を形成している。 |
| | 地質・土壌 | 丘地は花崗岩系を母岩とする壤土ないし砂壤土 低地は沖積性で壤土・砂壤土 |
| | 植生・林相 | 地区内大部分は再生林でわずかに高地峰の部分原始林を残し低地には湿地性草木の草地がある。 |
| 気候 | 最高平均 28.3℃ 最低 18.0℃ 降雨量 1,200mm | |

| | | |
|-------|---------|---|
| 社会的条件 | 交通 | カシヨエラ・デ・マカク市までは11km |
| | 市場 | 消費都市リオ・デ・ジャネイロを対象としているので今のところ販売に支障を来すおそれはない。 |
| | 医療・教育施設 | 地区内に小学校があり、カシヨエラ市には中学校がある。 カシヨエラ市には病院があり、医療施設は完備し手術も可能 |
| その他 | | |

2 入植計画 (状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 計 | 定着戸数 |
|-------|------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| | | | | | | | | | 9 | 39 | 4 | 1 | 1 | 53 | 48 |
| 総面積 | 1,015 ha | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 平均 1.11 ha | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地条件 | 一括払 600,000円 (平均) | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 分割払の場合頭金 30万円 (平均) 三年据置 3年年賦 | | | | | | | | | | | | | | |

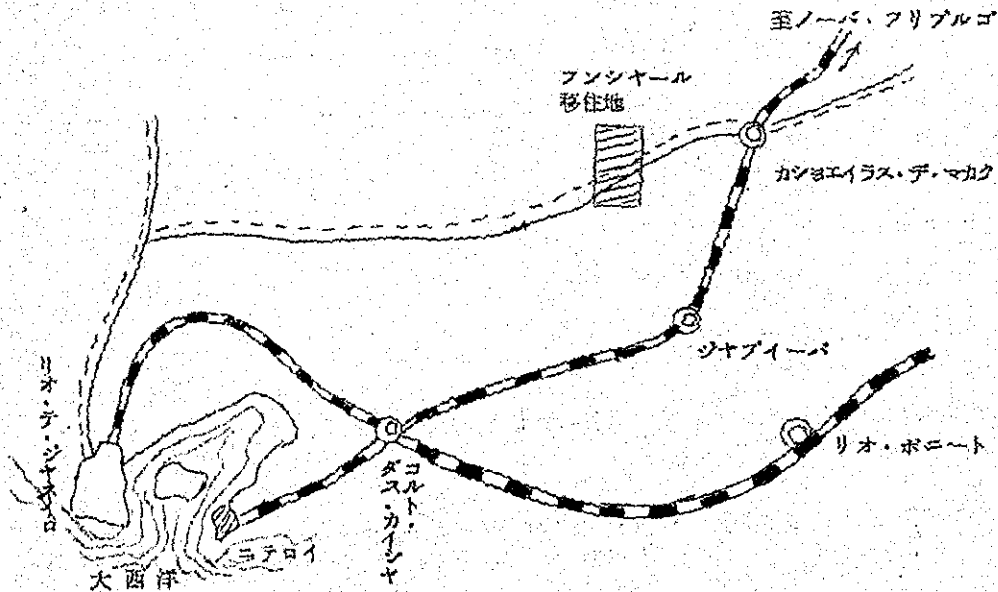
3 営農計画

| | |
|--------|--|
| 主作物 | 養鶏, 蔬菜, 永年作物としてはマラクジャ, パナナ, パイナップル |
| 営農のすめ方 | 入植初期の段階で伏開, 家屋, 鶏舎の建設后ひなの導入を行いそのかたわら農作物の植栽を実施する。養鶏を主体とし永年作物として果樹を植付ける。 |

4 特記事項及び問題点

| |
|-----------------------|
| 現在入植あつせん中 |
| 39年道路補修, 排水路工事が実施された。 |
| パイナップルの栽培が本格化しつつある。 |

5 地区略図



| | |
|---------|------------|
| 地 区 名 | ジャカレー移住地 |
| 移 住 形 態 | 自営開拓農(事業団) |
| 受入世話機関 | サンパウロ支部 |

1 地区概要

| | | |
|-----------------------|-------|---|
| 自 然 的 条 件 | 位 置 | ジャカレー市の西北5km |
| | 地 形 | 地区の北面東南両側に40~130mの丘陵がある。中央部は低地でパラテイ河が流れている。 |
| | 地質・土壌 | 丘陵地は花崗岩系の砂礫土、壤土が主で低平地は沖積性の植叢土 |
| | 植生・林相 | 丘陵地は主として草原、再生林で放牧地として利用されており低地は水田である。 |
| | 気 候 | 年平均気温 18 °C 最高 34.1 °C 最低 1.6 °C 雨量年間 1,160 mm |

| | | |
|-----------------------|---------|--|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | 地区内に鉄道が通っている。 サンパウロ市までは67km トラックで2時間弱である。 |
| | 市 場 | サンパウロ市 |
| | 医療・教育施設 | ジャカレー市には病院 中等学校の教育施設がある。 |
| | そ の 他 | ジャカレー市にコチア産組の出張所、倉庫がある。 |

2 入植計画(状況)

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | | | 4 | 20 | 3 | | | 36 | 85 |
| 総面積 | 613 ha (ドミニカ再転住を含む) | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 65 ha | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地条件 | 一括払 86万4千円(平均) 1ヶ-8万 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 分割払の場合は頭金30万円(平均) 3年据置 3年々賦 | | | | | | | | | | | | | | |

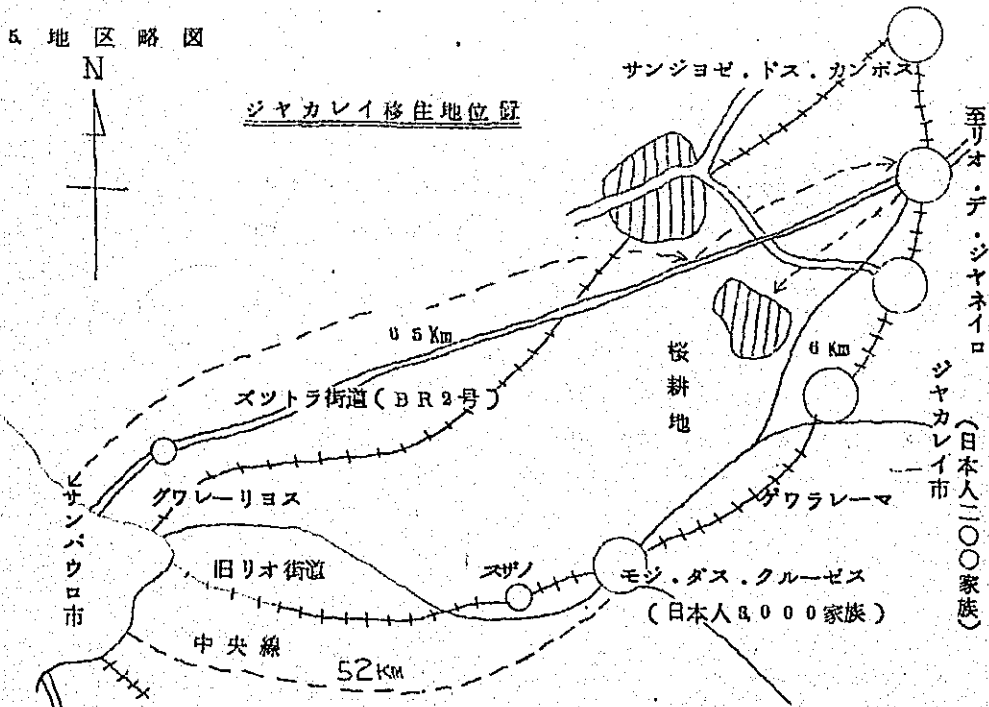
3 営農計画

| | |
|---------|--|
| 主作物 | 米作、野菜、果樹を主体とする。 |
| 営農のすすめ方 | 当初落花生、陸稻、野菜等を栽培し、一方永年作物を早急に植えつけ、養鶏を取り入れて、経営の安定拡大を図る。 |

4. 特記事項及び問題点

| |
|-------------|
| 現在7. 植あつせん中 |
|-------------|

5. 地区略図



| | |
|--------|---------|
| 地区名 | 桜耕地 |
| 移住形態 | 自営開拓農 |
| 受入世話機関 | サンパウロ支部 |

1. 地区概要

| | | |
|-------------------|---|-------------------------------------|
| 自然 的 条 件 | 位 置 | 23° 20' S 46° 05' W |
| | 地 域 | 標高500～650m緩い起伏をなす丘陵で小川、谷川、湧水等豊富である。 |
| | 地質・土壌 | 礫土 |
| | 植生・林相 | 再生林を含む草原地帯 |
| 気 候 | 夏期 晴天日中38℃ 夜間10℃ 降雨量1,500mm 冬期 / 20℃ / 50℃ | |

| | | |
|-----------------------|---------|---|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | グワラレーマ市へ8km ジャカレー市へ12km モジダス・クルーセス市へ30km 各市へのバスの便がある サンパウロ市へは57km |
| | 市 場 | サンパウロ市 |
| | 医療・教育施設 | 小学校が地区内にある。中学校はグワラレーマ市に通学する グワラレーマ市には州立病院がある。 |
| 七 の 他 | | |

2. 入植計画(状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | | | | | 7 | 0 | 18 | 18 |
| 総面積 | 200ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 5ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地条件 | A級ロッテ 一括払 5.2万円 B級ロッテ 一括払 4.8万円 | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 分納払 頭金31万2千円 分納払 頭金28万8千円 | | | | | | | | | | | | | |
| | 分納払の場合残額を1年以内に支払う | | | | | | | | | | | | | |

1ha=5.8

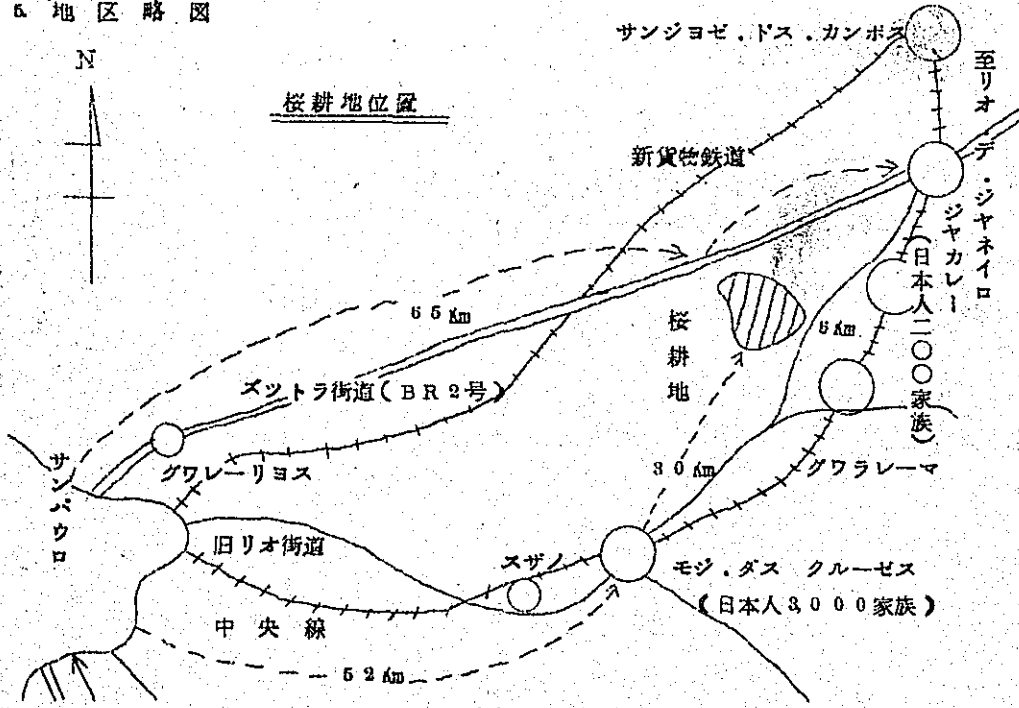
3. 営農計画

| | |
|---------|--|
| 主作物 | 短期作物 トマト、玉 葱、ササゲ、チンヤ 永年作物 柑橘 |
| 営農のすすめ方 | 都市近郊の恵まれた立地条件を生かして、生鮮食料品の生産販売を主とする。 養鶏を並行せしめて経営の安定を図ることが望ましい。 |

4. 特記事項及び問題点

当耕地は足立小平治氏が、独力で35年2月開設を意図したので始まる。

5. 地区略図



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | グアタバラ移住地 |
| 移住形態 | 自営開拓農(事業団) |
| 受入世話機関 | サンパウロ支部 |

1 地区概要

| | | |
|------|--|--|
| 自然条件 | 位置 | サンパウロ市の北西部 265km |
| | 地域 | 地区の57%は大波状形丘陵地、43%はモジグアス河の低地である。 標高500~570m |
| | 地質・土壌 | 丘地は輝緑岩と砂岩の風化土壌よりなるテーラ・ロシヤ・ミストラードで赤色を呈する。低地は黒色の沖積土で腐植に富む。土層は深い。 |
| | 植生・林相 | 丘地の一部は小灌木林又は雑木林能は放牧地で牧草が生育している。低地はモジグアス河に沿って原始林が帯状に密生している。 |
| 気候 | 年平均 21.8°C 最高月の平均 28.6°C 最低月の平均 18.4°C 年降水量 950mm | |

| | | |
|-------|---------|---|
| 社会的条件 | 交通 | サンパウロ市へは地区近傍のグアタバラ駅より鉄道で7時間自動車では5時間を要する。リベロンブレット市は45kmの距離にある。 |
| | 市場 | リベロンブレット市、サンパウロ市を対象とする。 |
| | 医療・教育施設 | 学校、診療所、倉庫等が完備されている。 リベロンブレット市には大学、病院がある。 |
| | その他 | コチア産組の出張所がある。 |

2 入植計画

(40.1.31現在)

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-----------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | | | | 27 | 42 | 88 | 22 | 129 | 129 |
| 総面積 | 7300ha | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 125ha | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地条件 | 水利施設共有権持分とも 1,402,000円 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 土地代々8万円を日本において一括払、水利施設費は2年据置20年々賦 | | | | | | | | | | | | | | |

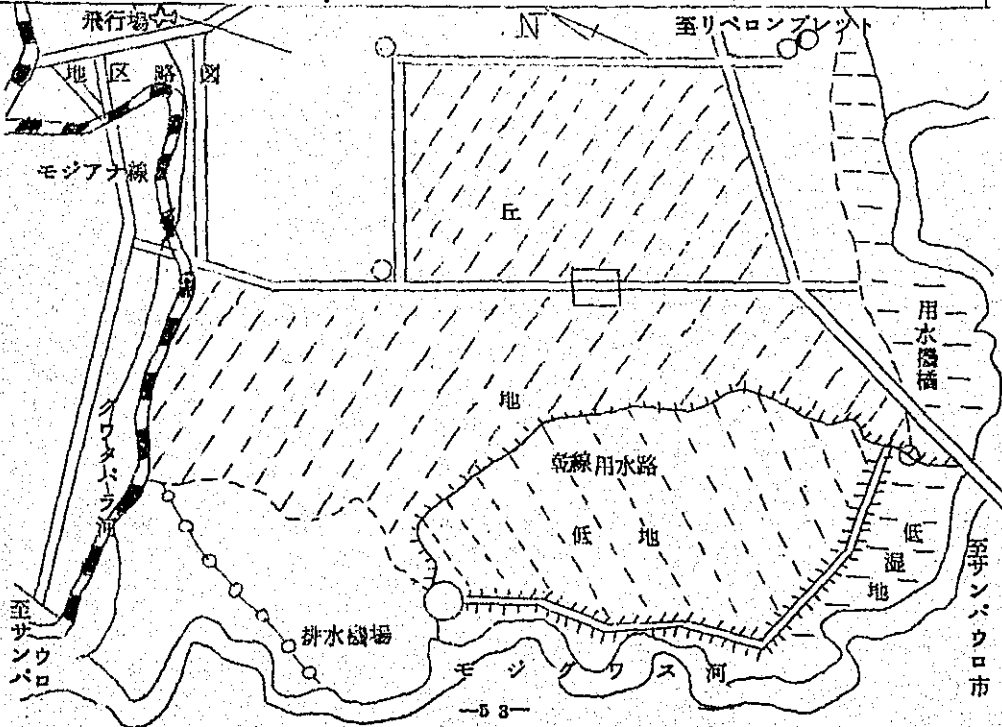
1ha=10万

3 営農計画

| | |
|---------|--|
| 主作物 | 米作、馬鈴薯、永年作物は柑橘 |
| 営農のすすめ方 | 低地の利用は雨期は灌水して稲作のみをやり乾期は畑地灌漑を行つてトマト ¹ ha 馬鈴薯 ¹ ha 緑肥 ^{3/4} ha 玉葱 ¹ haを作付する。 土地改良工事によつて低地から安定した収穫を上げつつ丘地柑橘の成熟を待ち又は給飼料を主に畜産を充実してゆく計画 |

4 特記事項及び問題点

山形、茨城、長野、岡山、佐賀の各県より44戸あて、島根、山口の各県より21戸あてとし、この7県下の応募者のみとする。



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | ビニヤール移住地 |
| 移住形態 | 口営開拓農(卒業団) |
| 受入世話機関 | サンパウロ支部 |

1. 地区概要

| | | |
|------|-------|--|
| 自然条件 | 位置 | サンパウロ市より南方、150 kmのビラール、ド・スール市近く |
| | 地形 | 標高700 m前後全体的に大きな波状をなしており傾斜6~7° |
| | 地質・土壌 | 頁岩の風化物を母材とした壤土乃至積層土を主体とし地味としては中腐、一部の低地では地下水高く腐植に富んだ暗黒色の砂壤土にして80 cm以下に暗青色の粘質層のあるところもある。 |
| | 植生・林相 | 地区の $\frac{2}{5}$ は再生林状の林地、 $\frac{1}{5}$ は灌木林、 $\frac{2}{5}$ は畑地及び放牧地となつている。 |
| | 気候 | 年平均気温18.5°ロサンパウロ州としてはかなり冷涼な地帯に属する。 年降雨量 1,300~1,300 mm |

| | | |
|-------|---------|--|
| 社会的条件 | 交通 | 1日4回サンパウロ市にゆくバスが運行しており5時間程で到着する ビラールドスール市まで18 km サンミケル・アルカンジョ市へは18 km |
| | 市場 | 主な市場はサンパウロである。 |
| | 医療・教育施設 | 地区内に小学校があり、中学校はビラール、ド・スール市及びサンミゲルアルカンジョ市にある。病院はビラールドスール市に2つある |
| | その他 | |

2. 入植計画(状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 計 | 定着戸数 |
|-------|--|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| | | | | | | | | | | | | 3 | 20 | | |
| 総面積 | 760ha | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 12ha | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地条件 | 一括払 65万 1h-54000- | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 分割払の場合は13万円を払込み残金は8年据置3年々賦となる。 | | | | | | | | | | | | | | |

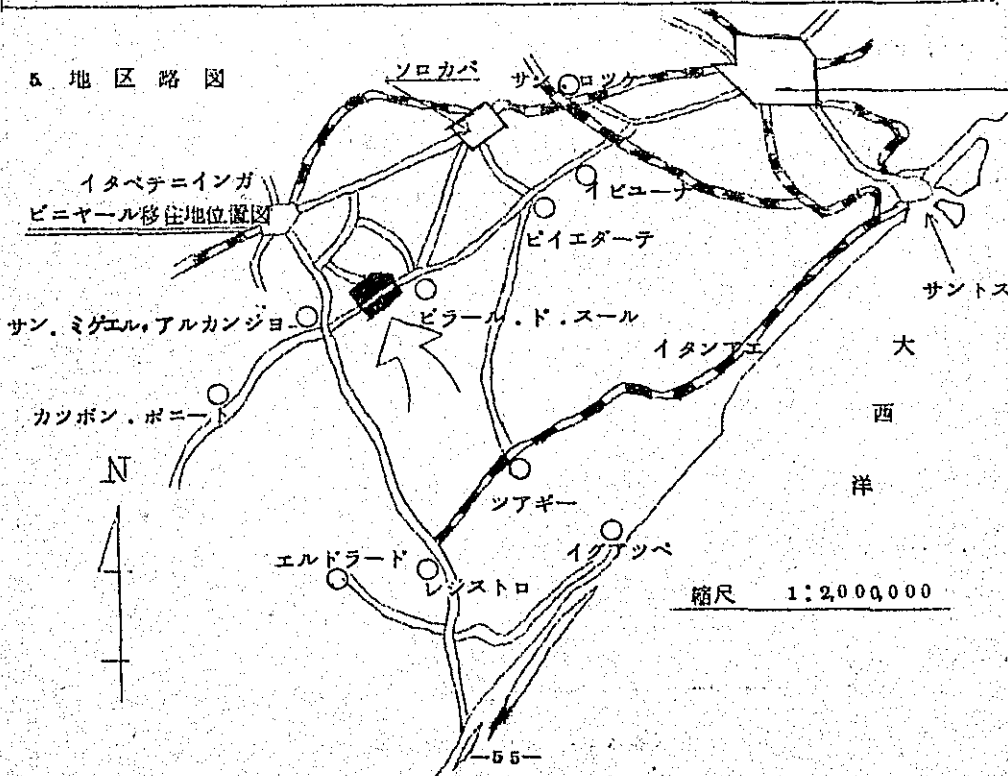
3. 営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 短期作物 馬鈴薯、甘藷、玉蜀黍、 永年作物 桃、柿、ブドウ |
| 営農のすすめ方 | 単都市近郊農業地として、トマト、ピーマン等の野菜栽培、ブドウ、桃、柿等の果樹栽培、或はこれらに養鶏を組合わせた有畜果樹園芸の経営を行う |

4. 特記事項及び問題点

現在入植あつせん中であり、全国を対象としている。

5. 地区路図



| | |
|---------|---------------|
| 地 区 名 | クルバイ移住地 |
| 移 住 形 態 | 自営開拓農(和歌山不動産) |
| 受入世話機関 | サンパウロ支部 |

1 地 区 概 要

| | | |
|-----------------------|---------|--|
| 自 然 的 条 件 | 位 置 | ドラーダス東南 140 km |
| | 地 域 | 標高400m. 高差50m 四方が谷で囲まれている。 中央部が高く幾分か起伏を経て谷に向つて落込んでいる。 |
| | 地 質・土 壌 | ラーラミスタに近い |
| | 植 質・土 壌 | |
| | 気 候 | |

| | | |
|-----------------------|---------|--|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | |
| | 市 場 | |
| | 市 場 | |
| | 医療・教育施設 | |
| | そ の 他 | |

2 入植計画(状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-------|-------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| | | | | | | | | | | | | | | |
| 総面積 | 1,704アルケール | | | | | | | | | | | | | |
| ロツテ面積 | 10アルケール | | | | | | | | | | | | | |
| 土地条件 | 80000クルゼイロス | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

3 営農計画

| | |
|---------|-----------------------|
| 主作物 | |
| 営農のすすめ方 | コーヒーは霜害にあり現在綿を主体としている |

4 特記事項及び問題点

5 地区略図

| | |
|---------|-------------|
| 地 区 名 | ドラーダス政任村 |
| 移 住 形 態 | 白富開拓農(連邦政府) |
| 受入世話機関 | サンパウロ支部 |

1 地区概要

| | | |
|-----------------------|---------|--------------------------------------|
| 自 然 的 条 件 | 位 置 | 22° 22' S 54° 25' W |
| | 地 形 | 地形はゆるやかな波状を呈し、起伏は40mを越えることはない。 |
| | 地 質・土 壌 | テラロシヤ地帯に属し、地味は肥沃であるが、地形により砂質壤土が点在する。 |
| | 植 生・林 相 | 森林はよく繁茂し、巨木の密生している良好な林相である。 |

| | | |
|-----------------------|---------|---|
| 社 会 的 条 件 | 気 候 | 雨期最低気温 22 °C 乾期最低気温 6~7 °C 年間雨量 1,329 mm |
| | 交 通 | ドラーダス市まで 70 km カンボグランデ市より 約110 km |
| | 市 場 | カンボグランデ市 |
| | 医療・教育施設 | 薬局1 病院1 小学校8 |
| | そ の 他 | 植民早務所 製材所 鉄工所 発電所等がある。 |

2. 入植計画(状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | 74 | 13 | | 4 | 3 | | | | | | | 94 | 77 |
| 総面積 | 30万ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロット面積 | 30ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地条件 | 無償 | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

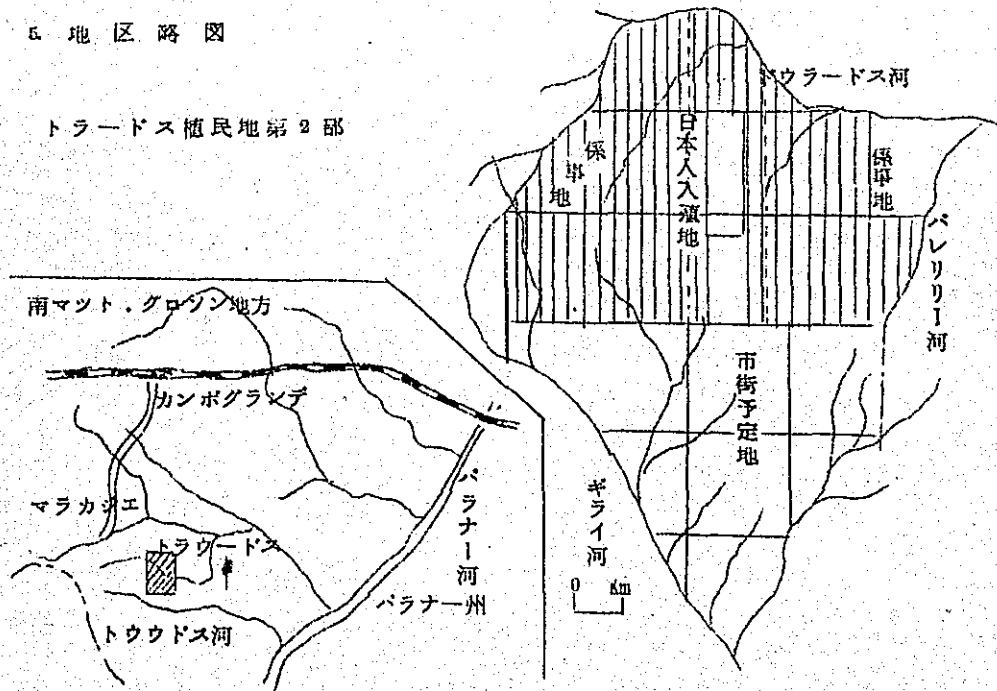
3. 営農計画

| | |
|---------|------------------------------------|
| 主作物 | 永年作物 コーヒー 短期作物 とりもろこし、フエイジョン、大豆、陸稻 |
| 営農のすすめ方 | コーヒーの株間を利用して、米、とりもろこし、フエイジョンを栽培する |

4. 特記事項及び問題点

| |
|--------------|
| 教育及び道路に問題点あり |
|--------------|

5. 地区略図



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | オウリーニヨス移住地 |
| 移住形態 | 自営開拓農 |
| 受入世帯機関 | サンパウロ支部 |

1 地区概要

| | | |
|------|-------|--|
| 自然条件 | 位置 | サンパウロ州オウリーニヨス市南方7km |
| | 地形 | 標高460~470m 緩傾斜の波状地で高台緩傾斜地、低地を含む |
| | 地質・土壌 | テラーソニアに微細砂の混じたものであり、若干粘着力が小さいが保水力はすぐれておりきわめて肥沃である。 |
| | 植生・林相 | 移住地の一部に原始林地帯を減しているが大半は耕されコーヒー雑作甘蔗牧場等として利用 |
| | 気候 | 年平均 20℃ 雨量 1,215mm |

| | | |
|-------|---------|--|
| 社会的条件 | 交通 | サンパウロ市へはオウリーニヨス市から汽車、バス、飛行機が定期に運行されている。国道380km |
| | 市場 | オウリーニヨス、サンパウロ市 |
| | 医療・教育施設 | オウリーニヨス市は教育、医療設備が完備している。 |
| | その他 | |

2 入植計画(状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | | | | 16 | | 1 | 17 | |
| 総面積 | 23875 ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロロテ面積 | 10 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地条件 | 052000クルセイロス | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 一括払 | | | | | | | | | | | | | |

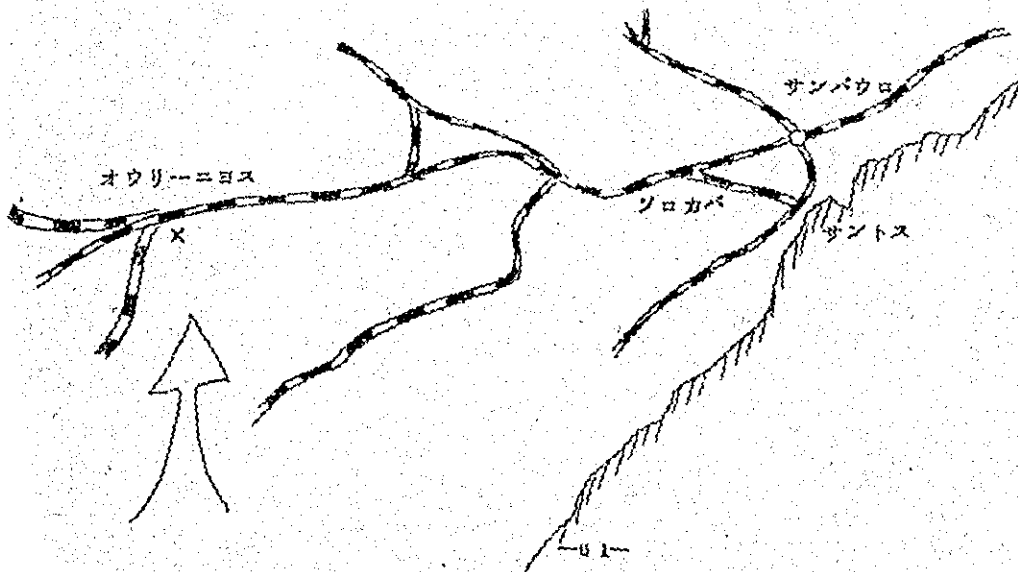
3 営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 短期作物 トウモロコシ、小麦、落花生、綿、永年作物 コーヒー、柑橘、果樹 |
| 営農のすなめ方 | コーヒーのほか、とうもろこしを裏作に小麦を裏作とし、このほか、養豚、養鶏を取入れた果樹経営を行う。 |

4. 特記事項及び問題点

オウリーニヨス方式いわゆる現地組合の創設した移住地に日本より移住者を導入したことに意義がある。
養豚協会にて送出した

5. 地区略図



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | バルセアアグレ移住地 |
| 移住形態 | 自営開拓(事業団) |
| 受入世話機関 | サンパウロ支部 |

1 地区概要

| | | |
|-------|---|---|
| 自然的条件 | 位置 | マツト・グロツソ州・カンボグランデ市西方45km |
| | 地形 | 大抵平担地又は極めてゆるやかな傾斜の所である。 |
| | 地質・土壌 | 地質年代は古い。土質は砂壤土、砂質土、テーラ・マサツベところによりテーラ・ロツシヤ地帯がある。 |
| | 植生・林相 | 奥地草原帯に属し、ところどころに原始林地帯、再生林地帯がある。 |
| 気候 | 平均気温 23.6 °C、最高平均30.9 °C、最低平均 18.1 °C 年間雨量 1,532.7mm 雨期10月~翌3月、乾期4月~9月 | |

| | | |
|-------|---------|---|
| 社会的条件 | 交通 | ノロエテス線鉄道が移住地の中央を東西に走りサンパウロ市(1,296km)には32時間、カンボ・グランデ市には自動車にて1時間の行程である。 |
| | 市場 | カンボ・グランデ市(人口8万)南マツト・グロツソにおける農産物の集散地、米、雑穀、コーヒー、畜産物取引される。 |
| | 医療・教育施設 | 移住地内に診療所 1 小学校 1 |
| その他 | | |

2 入植計画(状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | 8 | 18 | 28 | 1 | 0 | 0 | | |
| 総面積 | 34,368ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 25ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地条件 | 一括払 550,000円(平均) | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 分割払の場合 頭金は13万円、105万円、26万円で4年据置5年々賦である。 | | | | | | | | | | | | | |

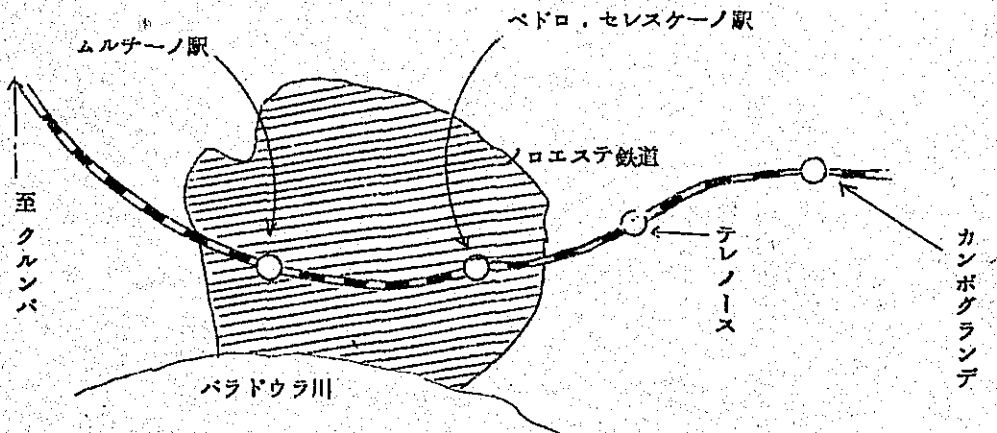
3 営農計画

| | |
|---------|------------------------------------|
| 主作物 | 陸稲、バナナ、とうもろこし、フエジヨン、マンジヨカ |
| 営農のすすめ方 | 現在、トウモロコシ、綿花、陸稲等に養鶏を取り入れた営農を行っている。 |

4 特記事項及び問題点

入植後2~3年退耕者があとをたたなかつた。
未利用地の取扱、

5 地区略図



アルゼンチン国

| | |
|--------|------------|
| 地区名 | ガルアペー移住地 |
| 移住形態 | 自営開拓団(専業団) |
| 受入世話機関 | ブエノスアイレス支部 |

1. 地区概要

| | |
|----------|---|
| 位 置 | 26°50' S 54°50' W |
| 自然的地質・土壌 | 標高250~300mアルトパラナ河畔にあり、河に向つてゆるく傾斜している波状丘陵地 母岩は玄武岩、土壌はその風化土壌たるデーラーロシヤで地味良、河畔又は一部に砂質及び砂礫地あり |
| 植生・林相 | 原生林、有用材木殆んどなし、入植者用建材あり |
| 気 候 | 雨期、乾期の別は判然としなが、年雨量1,500mm~2,000mm 最高平均気温37°C、最低平均気温-4°C |

| | |
|---------------|--|
| 交 通 | 国道12号沿に17.0kmにて州都ボサードス市(人口8万余)又120kmにてオペラ市(人口2万余)がある。国道12号線はイグアスへの観光道路で、地区の接する処にはバス、ストップがある。 ボサードス市はブエノスからの鉄道のターミナルと、又船の利用も出来る。 |
| 社 会 的 条 件 | ボサードス市：パラナ河をへだてて、エンカルナシオン市に対するミシオネス州の州都、鉄道でブエノスより34時間本地区の中間市場で、主な市場はブエノスアイレス市である。 ブエルトリコ町：(人口約3000人)地区南方国道12号線上にあり、附近の物資の集散地 |
| 医 療 ・ 教 育 施 設 | 診療所は地区南端国道12号線の所にあり、入院の為にはボサードス市に行く必要あり。小学校は州立58小学校が入植地専業所近くに、州立88小学校が地区中央部(ロット02)にあり。中学校はブエルトリコ町に在る。昭和40年度には新規小学校の建設が予定されている。 |
| 七 の 他 | 入植地専業所と仮収容所あり |

2 入植計画

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 計 | 定着戸数 |
|-------|--|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| | | | | | | | 6 | 20 | 4 | 14 | 22 | 12 | 7 | | |
| 総面積 | 約8,000 ha | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 1ロッテ平均30 ha | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | ①一括払いの場合は、521,300円 ②分払いの場合は664,300円 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | ①一括払いの場合は、全額を渡航前に日本国内で支払う。但し、地券は現地にて引渡される。 ②分払いの場合は、頭金10万円、残金は5年据置、3ヶ年平均等年賦払いで全額支払い後地券が引渡される。 | | | | | | | | | | | | | | |

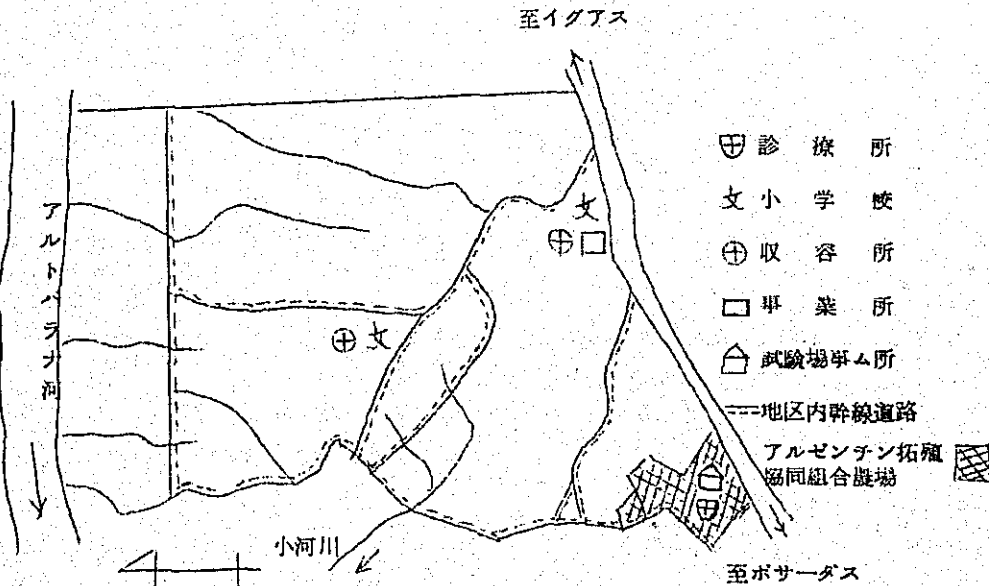
3 営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 煙草、マンジョカ、茶、油桐、パラナ松、ユーカリ、柑きつ類 |
| 営農のすすめ方 | 自家食料および当初の換金作物として煙草、マンジョカ、とうもろこし、豆類等を作り徐々に永年作物の茶、柑きつ類、油桐、およびパラナ松、ユーカリ等の作付けをし、順次永年作物作付面積を増す。 |

4. 特記事項及び問題点

短期作物は利潤の高い煙草が植え付けられ、永年作物としての植林は近傍に製材工場、パルプ工場もありその市場性は心配がない。既入植者は家畜の導入も徐々に進んでいるが、将来畜産導入にも力を注ぐべきであろう。

5 地区略図



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | アンデス移住地 |
| 移住形態 | 自営湖拓農(専業団) |
| 受入世話機関 | ブエノスアイレス支部 |

1 地区概要

| | | |
|------|--|---|
| 自然条件 | 位置 | 34°50' S 67°50' W |
| | 地形 | 標高約600m 所々に凹凸あるが、概して東南に向つてゆるやかな傾斜をなす平坦地である。 |
| | 地質・土類 | 植羂土を含んだ砂質土で、砂は粒子頗る細かく粘土分も含んでいる。 |
| | 植生・林相 | 耐旱性の強い約40種から70種位の樹木類が密生しており巨木はなし。 |
| 気候 | 1年を通じ最も暑い時期が1月で、最高平均気温24.8度、最も寒い日は7月で最低平均気温は8.6度となつている。7~8月頃には1~2回雪が降ることもある。 | |

| | | |
|-------|---------|---|
| 社会的条件 | 交通 | サン・ラファエル市(約80軒)ブエノスアイレス市まで週2回飛行便(約3時間)移住地より14軒ヘネラル、アルベアル市を起点として、ブエノスアイレス市、メンドサ市、サン・ラファエル市に至る鉄道及びアスファルト舗装がある。 メンドサ市へは毎日2回汽車便(所要時間約5時間半)ブエノス市へは週4回(急行で1.7時間)の汽車便のほか、両市へ長距離バスを運行している。 |
| | 市場 | ヘネラルアルベアル市 14軒人口3万 ブエノスアイレス市首都880軒 メンドサ市(州都) 800軒 サンラファエル市80軒人口10万人 |
| | 医療・教育施設 | ハイメブラツツ町(約5軒)病院、ヘネラルアルベアル市に総合病院のほか十数軒の開業医あり 小学校が移住地2軒にあり、外にハイメブラツツ町に大きな小学校あり、ヘネラルアルベアル市には、小、中学校、農業専門学校、看護婦養成学校がある。 |
| その他 | | |

2. 入植計画(状況)

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | | | | | | 11 | 13 | 24 | 24 |
| 総面積 | 約1,800 ha | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 1ロッテ平均10 ha | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 約120万円 | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 分括払の場合 頭金1ロッテ24万円渡航前に支払い、残金は円建とし5年据置以後4ヶ年年均等賦にて支払う。 | | | | | | | | | | | | | | |

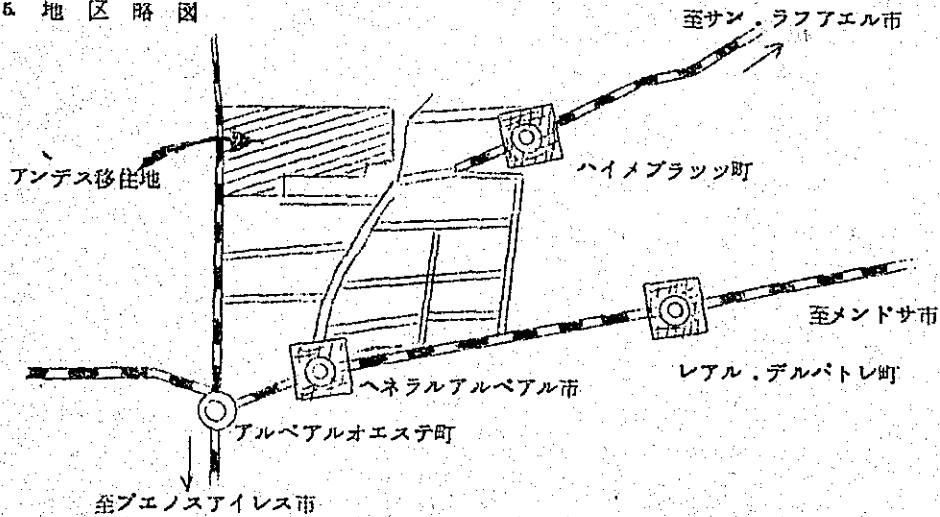
3. 営農計画

| | |
|--------|---|
| 主 作 農 | ブドウ、桃、梨等の果樹とトマト、ピーマン、たまねぎ等 |
| 営農のすめ方 | 入植後、直ちに住宅を建築し、耕地内の灌漑水路を整備し、永年作物としてブドウ、桃、梨、スモモ等を植え、短期作物としてトマト、ピーマン等の野菜及び飼料作物を栽培する。かくて完成年次は永年作物を主体とする栽培加味の経営を行なうことになる。なお、本地方は温帯果樹(ブドウ、モモ、ナシ等)に好適であり、ブドウの栽培面積はメンドサ州は全国の70%占めている。 |

4. 特記事項及び問題点

この地帯の農業は、日本内地におけるそれと全く異なり、土地利用の前に如何に水の合理的利用を基本としているかの現状を注意して着手しなければならない灌漑農業であり、この経験を有する者には、最も好適な移住地ということが出来る。又霜害のおそれがあるので、入植初期の段階では充分これに注意することが望ましい。88年の降雪と89年1月の降ひよりにより営農に手ひどい打撃を打った。

5. 地区略図



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | ウルキツサ植民地 |
| 移住形態 | 自営拓農(連国政府) |
| 受入世話機関 | ブエノスアイレス支部 |

1. 地区概要

| | | |
|-------------------|---------|-------------|
| 自然 的 条 件 | 位 置 | S. 35 W. 58 |
| | 地 形 | 標高 0 m |
| | 地 質・土 壌 | |
| | 植 生・林 相 | |
| | 気 候 | |

| | | |
|-----------------------|---------|----------------|
| 社 会 的 条 件 | 交 通 | ブエノスアイレス 55 km |
| | 市 場 | ブエノスアイレス |
| | 医療・教育施設 | 医療機関までの距離 4 km |
| | そ 他 | |

2 入 植 計 画 (状 況)

| 年 次 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 計 | 定着戸数 | |
|-----------|---------------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|----|
| 入 植 戸 数 | | | | | | | | | | | | | 17 | 3 | 20 | 20 |
| 総 総 積 | 約600ha | | | | | | | | | | | | | | | |
| ロ ッ テ 面 積 | 7~12ha | | | | | | | | | | | | | | | |
| 土 地 価 格 | 約200万円、ただし、住宅(107㎡)と倉庫(30㎡)を含む。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 支 払 条 件 | 入植時に10%残金は2年据置、15年、年賦払い、金利7% | | | | | | | | | | | | | | | |

8 営 農 計 画

| | |
|---------|-------------------------------------|
| 主 作 物 | 七菜、花卉、トウモロコシ |
| 営農のすすめ方 | 大消費地をひかえているため、生鮮七菜及び花卉の生産を主とした営農を行う |

4 特記事項及び問題点

当植民地はアルゼンティン政府農事露協会の直轄植民地で全ロッテ数は56、各ロッテ面積は7~12ヘクタールで住宅、及び倉庫が各ロッテに建設されている。

5 その他

パラグアイ国

| | |
|--------|------------|
| 地区名 | イグアス |
| 移住形態 | 自営開拓農(事業団) |
| 受入世話機関 | アスンシオン支部 |

1 地区概要

| | | |
|------|-------|--|
| 自然条件 | 位 置 | アルトパラナ県エルナンダリア郡アスンシオンより265km |
| | 地 形 | 標高平均250m 地域の北端をイグアス河、南端近くをモンダウ河が流れており何れもパラグアイ河にそそいでいる。 |
| | 地質・土壌 | 緑岩を母岩とする赤色の植土。低地、湿地には黒色土壌がある。 |
| | 植生・林相 | ところどころ草原があるがみつせうたる原始林。有用木が多い。 |
| | 気 候 | 平均気温14.9℃ 最高平均気温20.8℃ 最低平均気温8℃ 冬期は降霜をみる。降雨は年間1,785mm程度。 |

| | | |
|-------|---------|--|
| 社会的条件 | 交 通 | 移住地内を国際道路が貫通しており、ブラジル向の国際大橋の完成によりブラジルとの交流が期待されている。 |
| | 市 場 | アスンシオン市、その他 |
| | 医療・教育施設 | 診療所1、小学校2 |
| | そ の 他 | 現在あつせん促進中 |

2. 入植計画(状況)

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-----------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | | | | 14 | 2 | 25 | 23 | 64 | 61 |
| 総面積 | 82768ha | | | | | | | | | | | | | | |
| ロツテ面積 | 80ha | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 400000円(一括払) | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 分割払 頭金80000円4年据置、5年年賦 | | | | | | | | | | | | | | |

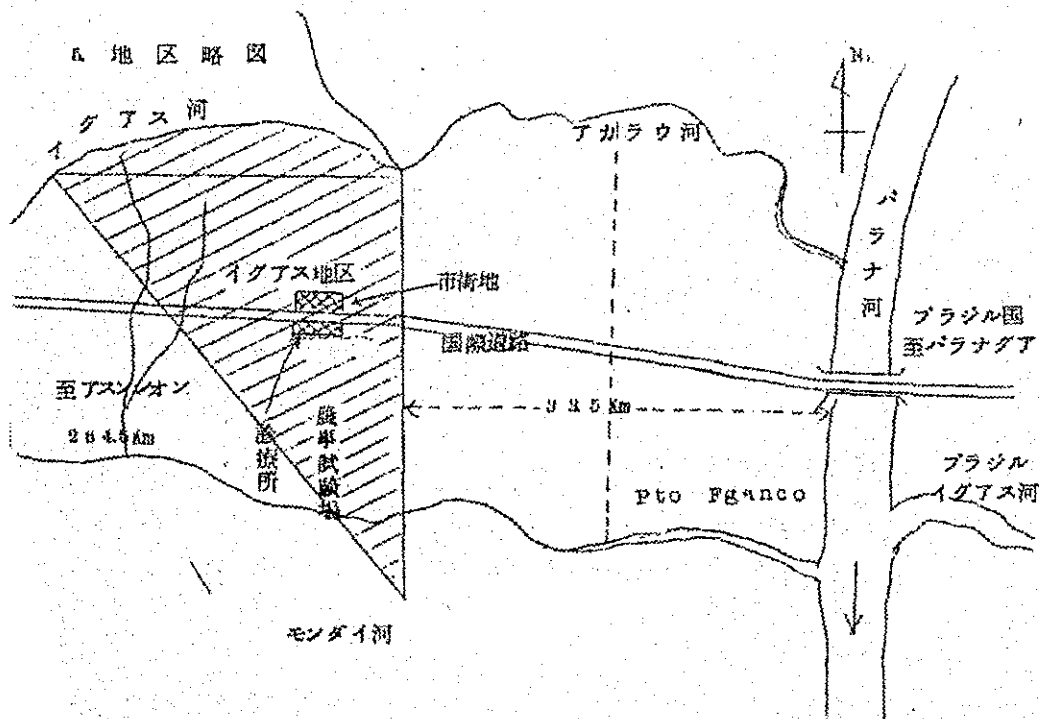
3. 営農計画

| | |
|---------|------------|
| 主作物 | 短期作物、柑橘、牧草 |
| 営農のすすめ方 | 地地区に準じる。 |

4. 特記事項及び問題点

| |
|------------|
| チヤベス地区と同じ。 |
|------------|

5. 地区略図



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | チャベス |
| 移住形態 | 自営開拓農(単業団) |
| 受入世話機関 | アスンシオン支部 |

1 地区概要

| | | |
|------|--|--|
| 自然条件 | 位 置 | イタプア県エンカルナシオン市より北方16 kmに於て植民地入口 |
| | 地 形 | パラナ河沿いの500~1000m丘陵地、地形は波状形の谷地で、植民地内の小河川は台地より河成り掘り下げられて低く森林に覆われている。 |
| | 地質・土壌 | 地質は輝緑岩の凡化岩を母材とし、土質はテーラ、ロシヤと呼ばれる肥沃なものである。 |
| | 植生・林相 | うつせりたる原始林であつたが、現在は全く崩壊されて農耕地となつている。 |
| 気 候 | 年間平均22℃ 1月：14℃~38.5℃ 平均28.8℃ 8月：0.2℃~30.5℃ 平均14.5℃ 降雨あり(5月~9月) 暴風7回あり : — (1958年) 年間雨量700~1,700mm 6月~9月に雨が少なく1月~5月に多い。亜熱帯性で乾期と雨期との明瞭な区別がない。 | |

| | | |
|-------|---------|---|
| 社会的条件 | 交 通 | アスンシオン市までバス運行、1日3回 所要時間30分 |
| | 市 場 | 消費市場：主としてエンカルナシオン市、その他ブエノスアイレス |
| | 医療・教育施設 | 小学校2校 |
| | そ の 他 | チャベス農協を結成、イタプア県他地区組合と共にイタプア県農協連を結成活動している。 |

2 入 植 計 画

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------|--------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| 入 植 戸 数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | 19 | 54 | | | 1 | 1 | 1 | | | | | |
| 総 面 積 | 6万8千ha (チャベス国有植民地) | | | | | | | | | | | | | |
| ロ ッ テ 面 積 | 20 ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土 地 価 格 | 満 値 | | | | | | | | | | | | | |
| 支 払 条 件 | | | | | | | | | | | | | | |

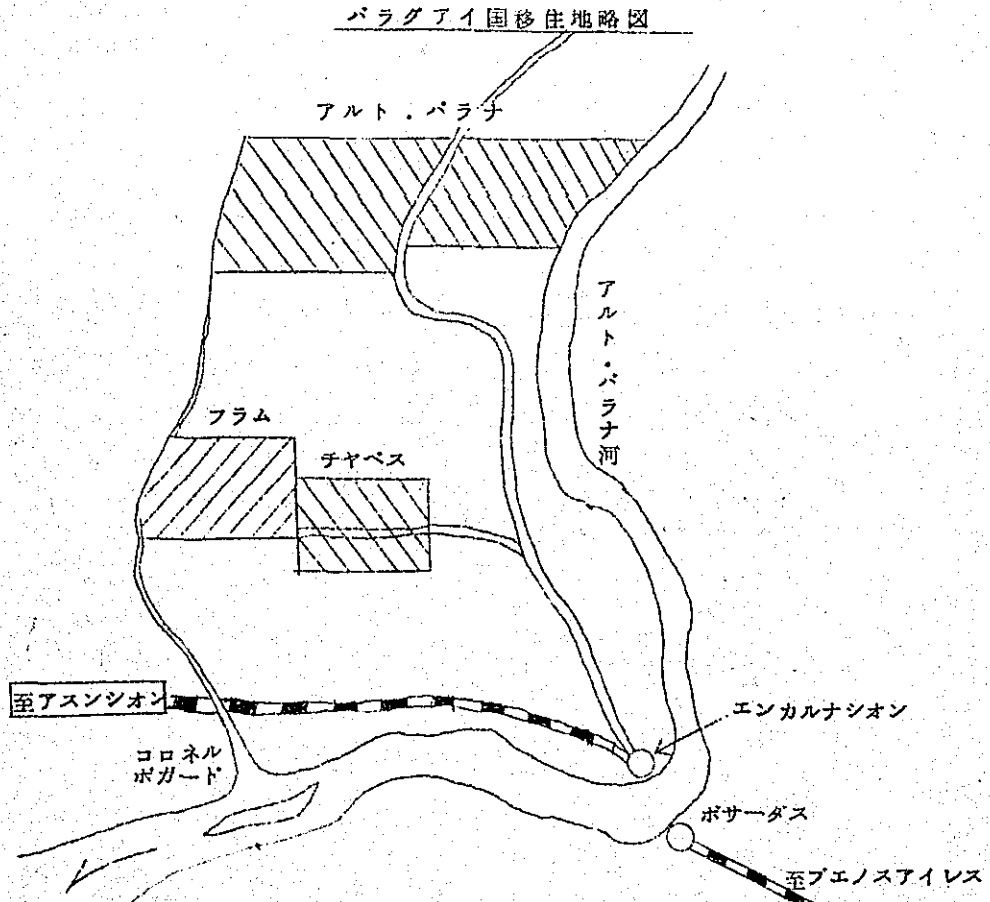
3. 営農計画

| | |
|---------|---|
| 主作物 | 短期作物：米、落花生、小麦、マリス(大豆)馬れいしよ、タバコ、マン ジヨカ 永年作物：油桐、マテ茶、ホメロ、ブドウ |
| 営農のすすめ方 | 国内市場が限られているため、入植当初は自給自足の体制をとり、逐次永 年作物の家畜導入をはかり国際市場を相手とする。 |

4. 特記事項及び問題点

| |
|---------------------|
| 国内市場の狭小と生産物の販売市場の確保 |
|---------------------|

5. 地区略図



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | フラム |
| 移住形態 | 自営開拓者(単業団) |
| 受入世話機関 | アスンシオン支部 |

1. 地区概要

| | | |
|-------|-------|-------------|
| 自然的条件 | 位置 | } チャベス地区に同じ |
| | 地形 | |
| | 地質・土壌 | |
| | 植生・林相 | |
| | 気候 | |

| | | |
|-------|--------------------------------|----------------|
| 社会的条件 | 交通 | } チャベス地区にほぼ同じ |
| | 市場 | |
| | 医療・教育施設 | 診療所1、小学校6、中学校1 |
| その他 | 富士農協、サンタ、ロサ農協、ラ・パス、農協の3単協よりよる。 | |

2. 入植計画(状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|-------|---------------------------------|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|-----|------|
| | | | | | 81 | 158 | 86 | 14 | 25 | | | | 355 | 285 |
| 総面積 | 16057ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 25ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 旧フラム地区 | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 一括払138000円分割払い頭金72000円4ヶ年据置4年年賦 | | | | | | | | | | | | | |
| | 第2スペイン地区 | | | | | | | | | | | | | |
| | 一括払272000円分割払い頭金100000円 | | | | | | | | | | | | | |

3. 営農計画

| | |
|---------|-------------|
| 主作物 | } チヤベス地区に同じ |
| 営農のすすめ方 | |

4. 特記事項及び問題点

| |
|-----------------------|
| チヤベス地区に同じ。パラグアイ移住地共通。 |
|-----------------------|

5. 地区略図

| | |
|--------|------------|
| 地区名 | アルトバラナ |
| 移住形態 | 自営開拓農(事業団) |
| 受入世話機関 | アスンシオン支部 |

1. 地区概要

| | | |
|------|-------|--|
| 自然条件 | 位置 | パラグアイ国第2の都市エンカルナシオンより地区の入口まで80km |
| | 地形 | 標高150~200mの波状形の緩傾斜の地帯である。小河川あり |
| | 地質・土壌 | 母岩は輝緑岩として土壌はテラ、ロシヤとよばれる赤い肥沃なも酸度は中性 |
| | 植生・林相 | 原始林に覆われたところである。有用材が多い。草原は極めて少ない |
| 気候 | | 年間平均21~23℃最高30~32℃(1月)最低10℃(8月)降霜あり。 年間雨量700~1,700mm 4月~8月雨少なく、1月~5月に多い。 亜熱帯性で乾期と雨期との明瞭な区別がない。 |

| | | |
|-------|---------|--------------------------------------|
| 社会的条件 | 交通 | エンカルナシオン市まで80kmバス1日数回 当団の建設した道路良好 |
| | 市場 | チャベス地区に同じ。 |
| | 医療・教育施設 | 診療所1、小学校4 |
| | その他 | 現在入植あつせん中止中 |

2. 入植計画(状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 39 | 計 | 定着戸数 |
|-------|-----------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|---|------|
| | | | | | | | | | | 154 | 184 | 40 | | | |
| 総面積 | 8854.0 ha | | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | 30 ha | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 35000円(一括払) | | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | 分割払い頭金70000円 4年据置5年年賦 | | | | | | | | | | | | | | |

3. 営農計画 チヤベス地区に同じ

| | |
|---------|--|
| 主作物 | |
| 営農のすすめ方 | |

4. 特記事項及び問題点

| |
|-----------|
| チヤベス地区に同じ |
|-----------|

5. 地区略

パラグアイ国

| | |
|--------|----------------|
| 地区名 | アマンバイ移住地 |
| 移住形態 | 雇用移住者（現在独立自営農） |
| 受入世話機関 | アスンシオン支部 |

1 地区概況

| | | |
|------|--|---|
| 自然条件 | | <p>位 置 パラグアイ国ペドロフアン市近郊</p> <p>地 形 標高700米平たん、ゆるやかな起伏あり、草原と森林地帯</p> <p>地質・土壌 テラーロシア肥沃地</p> <p>気 候 熱帯圏に属しているが標高のゆ保で亜熱帯的で年間平均19.8度である。</p> <p>植 生 森林地帯は有用木を混じた処女林が多い</p> |
|------|--|---|

| | | |
|-------|--|--|
| 社会的条件 | | <p>交 通 アスンシオン市とは航空路とパラグアイ河による船便、ブラジル側はノロエステ線の分線の終点ボンタポランより、サンパウロまで鉄道便あり</p> <p>市 場 ペドロフアン市、ボンタポラン市を主とし特殊産物は、アスンシオン市、サンパウロ市に販路あり。</p> <p>医療・教育施設 ボンタポラン市に総べて完備している。</p> |
|-------|--|--|

2. 入植計画(状況)

| | | |
|-------|-----------------|--------------|
| 入植戸数 | 128戸 | |
| 総面積 | 2,000町 | |
| ロッテ面積 | 20ha | 300ha - 2000 |
| 土地価格 | 時価 ha 当約10,000円 | |
| 支払条件 | 一括払い | |

3. 営農計画

| | |
|---------|--|
| 主作物 | 永年作物 コーヒー、ハツカ、果樹類 短期作物 大豆、米、フエジヨン、柿、馬鈴薯、小麦、野菜 |
| 営農のすすめ方 | 独立后、8年余であるが一戸当8000本平均のコーヒー植付が完了しており来年度より収穫期に入るので安定度は非常に高い。 |

4. 特記事項

本地区はコーヒー主体で土地も肥沃、立地条件が甚だ秀れているので今后入植を希望するものにとつて注目すべき所であるが現在は公募の形をとつていないので呼寄移住形式によつて取扱つて行く予定、(戦后雇用移住者によつて自主的に作られた移住地で特殊成功のケースである)

ボリビア国

| | |
|-------|------------|
| 地区名 | サンフアン |
| 移住形態 | 白営州拓農(事業団) |
| 受入地機関 | サンタ・クルス支那 |

1 地区概要

| | |
|-------|---|
| 位置 | 17° 20' S 68° 50' W |
| 地形 | 大部分は平坦で小川により浅谷が南東から北西に走っている。 |
| 地質・土壌 | 沖積扇台地で、砂土、粘土が交錯、PH.4.5~5.6 |
| 植生・林相 | モタク、アルメンドリリーヨ、マラ、オーチヨ、タヒーボ等の熱帯樹木が繁茂し、沼沢地を除き林相は密である。 |
| 気候 | 雨期(12月~3月)28°C、乾期(5月~9月)21°C 年間降雨量 2,000mm~2,200mm |

| | |
|---------|---|
| 交通 | サンタ・クルス市より移住地入口まで約130kmの国道が通っており、移住地内の道路は一応全ロットテに通じているが、排水路工事が未完成である。サンタ・クルス市より移住地中心まで1日2往復のバス便がある。 |
| 市場 | サンタ・クルス市(8万人)に130km、コチャバンバ市(10万人)サンタ・クルス市より500km、ラバス市(37万人)サンタ・クルス市より1,000kmの距離にあり、産米の主たる販売場となっている。 |
| 医療・教育施設 | 移住地中心に診療所があり、日本人医師が駐在している。小学校5、中学校1、がある。 |
| その他 | 日、ボ移住協定によつてボ国政府の協力を得ている。 |

2 入植計画(状況)

| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
|--------|----------|----|----|----|----|----|-----|-----|----|-----|-----|----|---|------|
| | | | | 7 | 87 | 3 | 377 | 527 | 1 | 464 | 308 | 3 | | |
| 総面積 | 35,288ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロットテ面積 | 1戸~50ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | 無償 | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

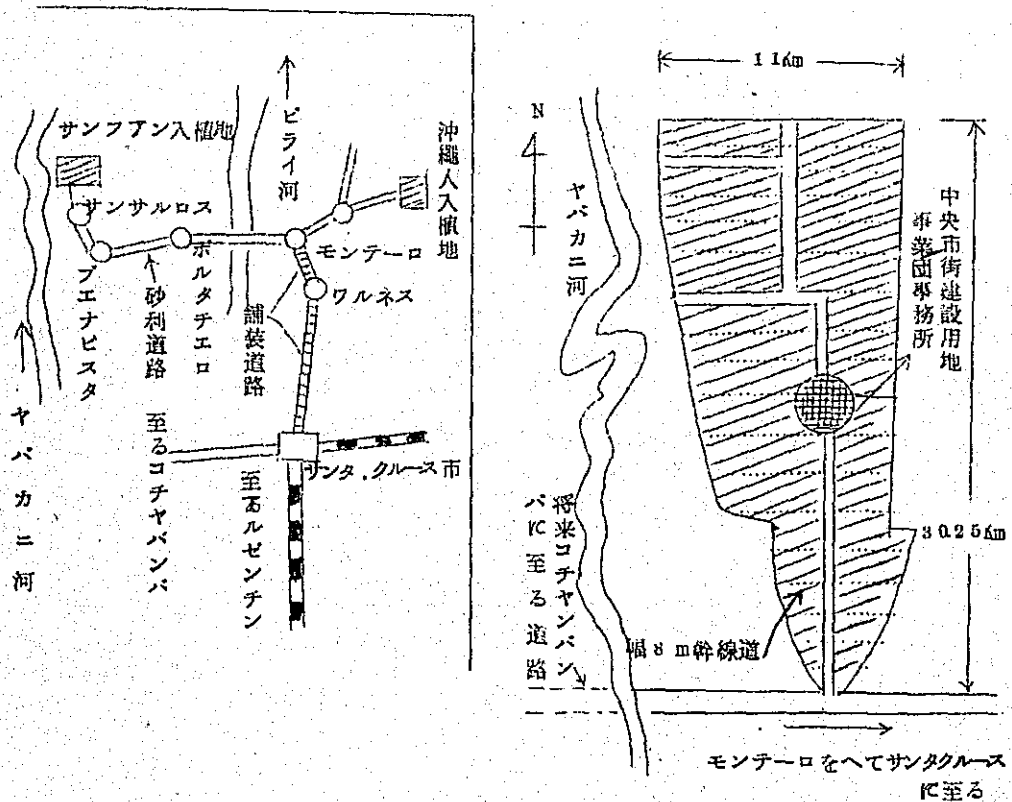
8. 営農計画

| | |
|---------|--|
| 主 作 物 | 陸稻、大豆、カカオ、柑橘 |
| 営農のすすめ方 | 当面換金作物として米作に依存し、将来畜産をとり入れる計画がある。 カカオ、柑橘は普及の段階である。 |

4. 特記事項及び問題点

- 1 道路、従来道路予算が本格的に予算化されていなかったため、排水路及び橋梁工事が未
完成となっている。
- 2 営農、米作営農のため、営農上多くの問題があり、現在このために対策が考えられて
いる。

5. 地区略図



ドミニカ国

| | |
|--------|------------|
| 地区名 | ダハボン |
| 移住形態 | 自営開拓地 |
| 受入世話機関 | サント・ドミンゴ支部 |

1 地区概要

| | |
|----------|---|
| 位置 | ダハボン県ラ・ビヒア |
| 自然的地質・土壌 | 標高50m以下、一部小丘を除き概ね平坦であるが、地区東、西側に河があり、西側のマサクレ河沿いは浸水をうけ易い、低地となっている。土壌は酸性暗色の腐植土～壤土であるが、殊に河沿低地帯は肥沃である。 |
| 植生・林相 | 浸水地帯は椰子その他巨木が密生し、その他の部分は喬木、かん木の混つた森林となっている。 |
| 気候 | 年平均25.0℃、最高(8月)28.4℃、最低(1月)22.0℃である。夏季は相当に暑い、夜は比較的涼しく涼み易い。年間1,200～1,300mmで、1月～3月は乾季で降雨量は極端に少ない。 |
| 交通 | ダハボン市(人口約9,000人)、地区南方8km道路にあり、本地区より、アスファルト道により連絡、ダハボン～モンテクリステイ間1日2回のバス連絡あり、本地区はその道路より2.5km西よりに在る。モンテクリステイ市(人口約12,000人)地区北方27.5kmにありアスファルト道により連絡 |
| 社会的条件 | ダハボン市は県庁所在地で病院、警察署、国境警備隊、郵便局等ありサンチャゴ市(人口約16万人)地区西方約150kmトラックにより農産物輸送、地区の主な市場、ペペーリョ・サルセード市(人口約4,000人)地区北方2.2kmに在りユナイテッド・フルーツのパナマ、トマト輸出港で1万トン級の船舶の入港は可能である。 |
| 医療・教育施設 | 地区内診療所あり(ダハボン市に日本人医師が国立病院に勤務し、週2-3回来診)地区内に分教場(小学校)あり、中学校はダハボン市にあり |
| その他 | 入植後8年日に地権獲得した。 |

2 入植計画(状況)

| | | | |
|------|--------------------------------------|----|------|
| 入植戸数 | 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | 58 | 39 |
| 総面積 | 1,200 ha | | |
| 口口面積 | 各戸平均8 ha を所有。その他1.3～2.4 ha の借地をしている。 | | |
| 土地価格 | | | |
| 支払条件 | 所有地はド国政府の供与による | | |

4. 営農計画

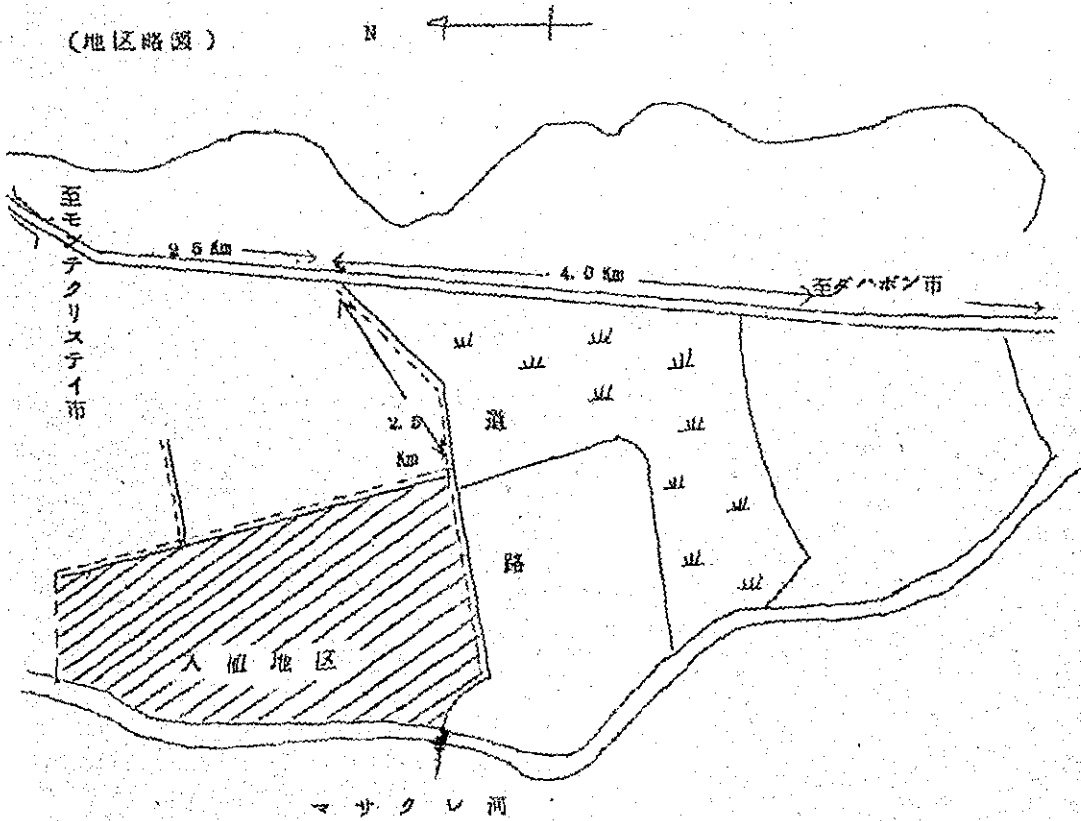
| | |
|---------|---|
| 主作物 | 水稲 その他七穀類 |
| 営農のすすめ方 | 安定作物である水稲を主とし機械化を逐次おし進め、一方借地等により拡大をはかる。 |

4. 特記事項及び留意点

土地拡大と水利に制限があること。

5. 地図略図

(地区略図)



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | コンスタンサ |
| 移住形態 | 自営開拓農 |
| 受入世話機関 | サント・ドミンゴ支部 |

1. 地区概要

| | | |
|-------|--|--|
| 自然的条件 | 位置 | ラベガ県コンスタンサ |
| | 地形 | 標高1,200m、国土のほぼ中央の山岳地帯の盆地に在り、地形一部を除き平担である |
| | 地質・土壌 | 土壌は黒色又は黒褐色の植土で腐植にとみ、酸性である。表土60cm前後である。 |
| | 植生・林相 | 周辺地帯は針葉樹が密茂しており、殊に松材は良質のものがえられる。 |
| 気候 | 気候冷涼で避暑地として有名で、そのかんきよりは欧州を思わせるものがある。最高平均25.8℃、最低平均10.0℃ 年平均18.3℃(1月が最も寒く、8月が最もあつい。) 冬季雨量少く、夏季雨量最多である。年平均1,060mm 前後 | |

| | | |
|-------|---|---|
| 社会的条件 | 交通 | コンスタンサ市(人口約11,000人)、地区はこの町外れにありハラバコア町(人口約5,000人)地区東北方4.8km、サンチャゴ市(人口約16万人)地方北方12.1km ラベガ市(人口約11万人)地区東北方7.7kmサントドミンゴ市(人口約27万人)地区南方18.4km |
| | 市場 | 移住地内で商人に販売するが、或いはトラックでラベガ、サンチャゴ、サントドミンゴの市場で販売する。 |
| | 医療・教育施設 | 町に小学校、診療所がととのつている。 |
| その他 | 入植後10年で地権獲得 2地区にわかれている。ハボネサ地区とサビーナ地区 | |

2. 入植計画(状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------------------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | 29 | 1 | | 5 | | | | | | | |
| 総面積 | 約470ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | ハボネサ地区平均8ha、サビーナ地区平均5ha | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | ド国政府の供与による。 | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

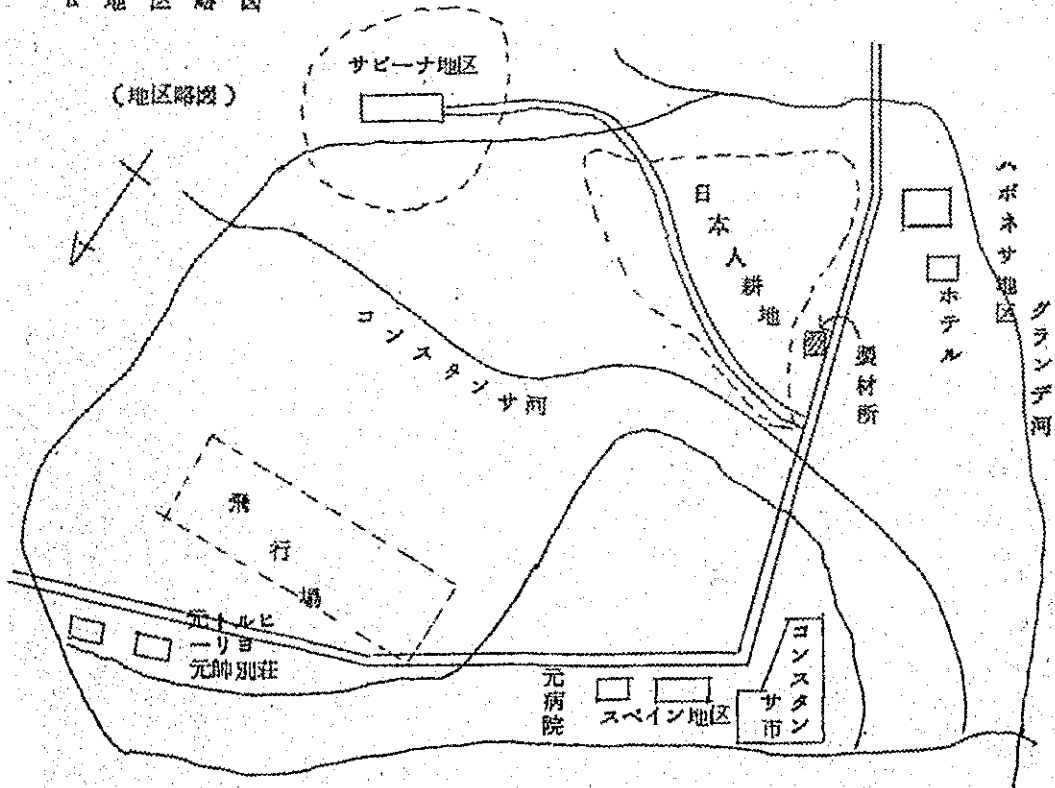
8 営農計画

| | |
|---------|----------------------------------|
| 主 作 物 | トマト、ジャガイモ、キャベツ、花せの他野菜 |
| 営農のすすめ方 | 冷涼地帯である特殊性を利し、多肥集約農法による野菜栽培を行なう。 |

4. 特記事項及び問題点

| |
|-------------------|
| イ、地権の確保 |
| ロ、野菜連作による土地肥沃度の低下 |

5 地区略図



| | |
|--------|------------|
| 地区名 | ハラバコア |
| 移住形態 | 口営開拓農 |
| 支入世話機関 | サント・ドミンゴ支部 |

1. 地区概要

| | | |
|------|---|--|
| 自然条件 | 位置 | ラベガ県ハラバコア |
| | 地形 | 標高600m本地区はドミニカ国中央山脈からその北側に在る穀倉地帯ンバオ平原に至る中間の台地に在り、地区は北方以外の三方を丘に囲まれている。 |
| | 地質・土壌 | 表土40~50cmで黒褐色の壤土~埴壤土で酸性、処により石灰岩質の礫が多く含まれている。しかし地味一般に良い。 |
| | 植生・林相 | 本地区附近は20m以上の木からなる中程度の森林である。椰子類が多く、大なるは直径1mも及ぶものあり、しかし一般に30~40cm位である。草原はない。 |
| 気候 | 地区南方のコンスタンサ地区より600m低いので、最低温度は約3℃高い。最高平均28.3℃、最低平均16.3℃、年平均22.8℃、年平均1,456mm年間平均しているが殊に5月が最も多い。 | |

| | | |
|-------|---------|--|
| 社会的条件 | 交通 | 国土の中央に位し、邦人コロニア各主要都市に最も近く、交通も至便である。地区は首都サントドミンゴ市の北々西16.0km(道路)、サンチャゴ市南々東6.0km、ラベガ市北西2.0kmの地点に在り、尚地区はハラバコア町の南1kmの町はずれに在る。 |
| | 市場 | コンスタンサと同じ。 |
| | 医療・教育施設 | ハラバコア地区に病院施設がある。地区内の児童はハラバコア町の小学校に通学している。 |
| | その他 | 入植後10年後に地権獲得 |

2. 入植計画(状況)

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 入植戸数 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 | 35 | 36 | 37 | 38 | 計 | 定着戸数 |
| | | | | | | | 16 | | | | | | 16 | 16 |
| 総面積 | 約600ha | | | | | | | | | | | | | |
| ロッテ面積 | | | | | | | | | | | | | | |
| 土地価格 | ド国政府の供与による。 | | | | | | | | | | | | | |
| 支払条件 | | | | | | | | | | | | | | |

8. 営農計画

| | |
|---------|--|
| 主作物 | 米、トマト、その他野菜 |
| 営農のすすめ方 | 安定作物である米を一定面積作付し、後は市場価格をにらみ合せながら投機的野菜栽培を行なう。 |

4. 特記事項及び問題点

| |
|---------------------------|
| イ、地権の確保 |
| ロ、土地拡大が同地区内では殆んど不可能であること。 |
| ハ、ド国人入植者との接触 |

6. 地図略図

